

第 69 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議

日時：令和 4 年 2 月 16 日（水）17 時 00 分～

場所：大阪府新別館北館 1 階 災害対策本部

次 第

議 題

（１）現在の感染状況・療養状況等

- ・現在の感染状況について【資料 1－1】
- ・現在の療養状況について【資料 1－2】
- ・医療提供体制がひっ迫している要因の分析について【資料 1－3】
- ・感染状況と医療提供体制の状況について【資料 1－4】
- ・滞在人口の推移【資料 1－5】
- ・飲食店等における営業時間短縮要請の協力状況【資料 1－6】

（２）まん延防止等重点措置に関する要請等

- ・まん延防止等重点措置に関する要請【資料 2－1】
- ・専門家のご意見【資料 2－2】

（３）その他

- ・オミクロン株の感染まん延期における高齢者施設への支援等について【資料 3－1】
- ・新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関への緊急要請について【資料 3－2】
- ・医療提供体制の確保や高齢者施設支援などに関する医療機関・施設等への要請について【資料 3－3】
- ・オミクロン株感染まん延期における重症化リスクの高い高齢者等の治療支援の強化について【資料 3－4】
- ・宿泊療養施設を活用した「臨時の医療施設・スマイル」の運用【資料 3－5】
- ・入院患者待機ステーションの運用状況【資料 3－6】

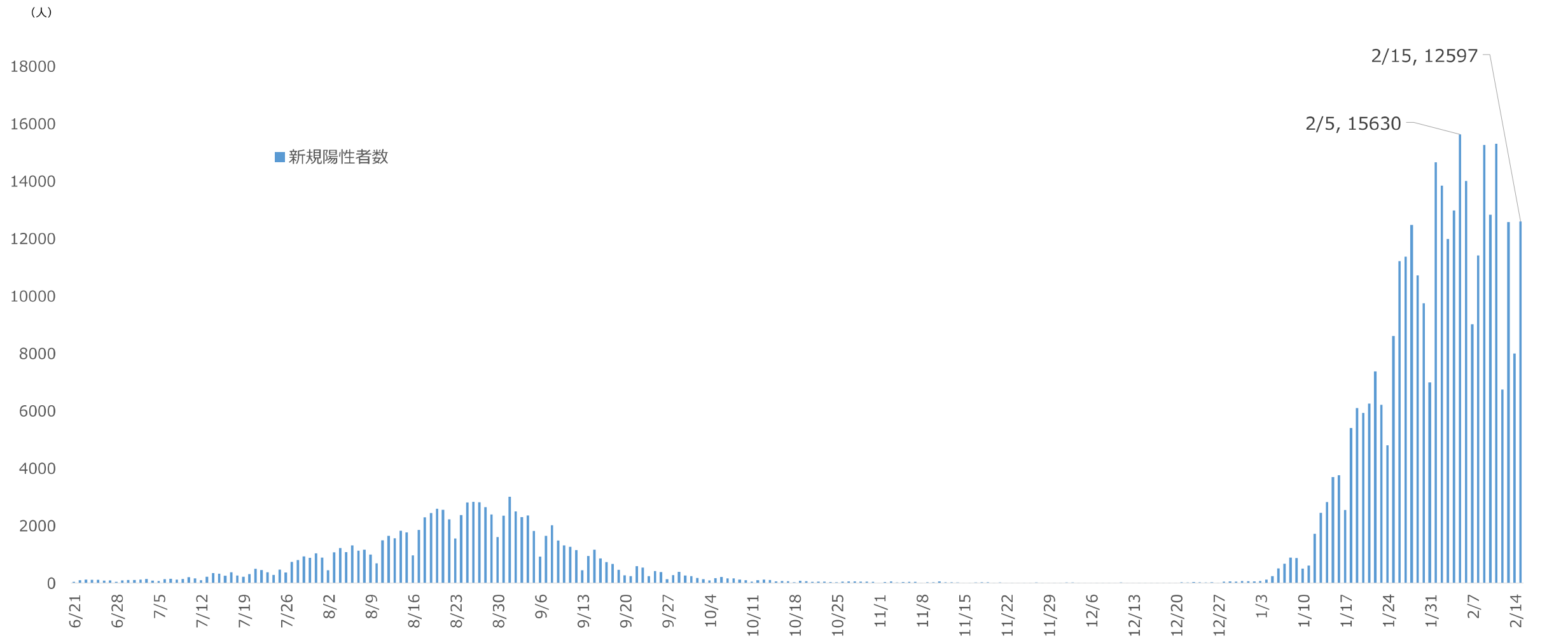
1 陽性者数等の推移

P2~14

1 陽性者数等の推移

陽性者数の推移（2月15日時点）

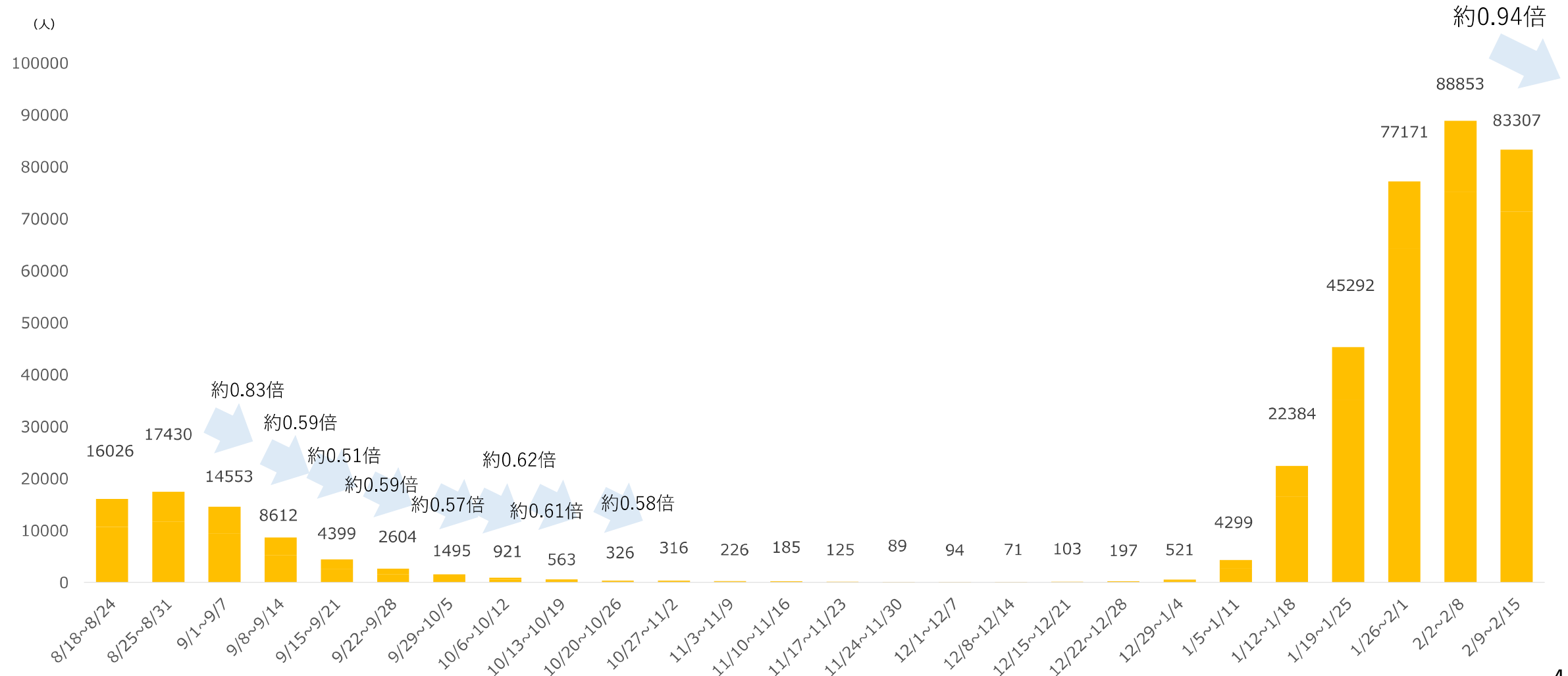
◆ 新規陽性者数は減少に転じているが、依然、1万人を大きく上回る陽性者を確認。
（本日2月16日の新規陽性者数は12,467人）



※1月26日以降における大阪市保健所の陽性者発生届のHER-SYS処理遅延件数は、発生届受理日翌日に概数で計上。今週中に最終値を計上する予定。

7日間毎の新規陽性者数(2月15日時点)

◆ 直近1週間は前週より減少に転じているが、依然、大規模な感染拡大が継続。(直近1週間は平均約11,901人/日)
 (本日2月16日の新規陽性者数12,467人を含めた2月10日~16日までの直近1週間は80,510人。
 前週比で0.89倍)



※1月26日以降における大阪市保健所の陽性者発生届のHER-SYS処理遅延件数は、発生届受理日翌日に概数で計上。今週中に最終値を計上する予定。

新規陽性者数及び前週同曜日増加比の推移

上段：新規陽性者数
下段：前週同曜日増加比

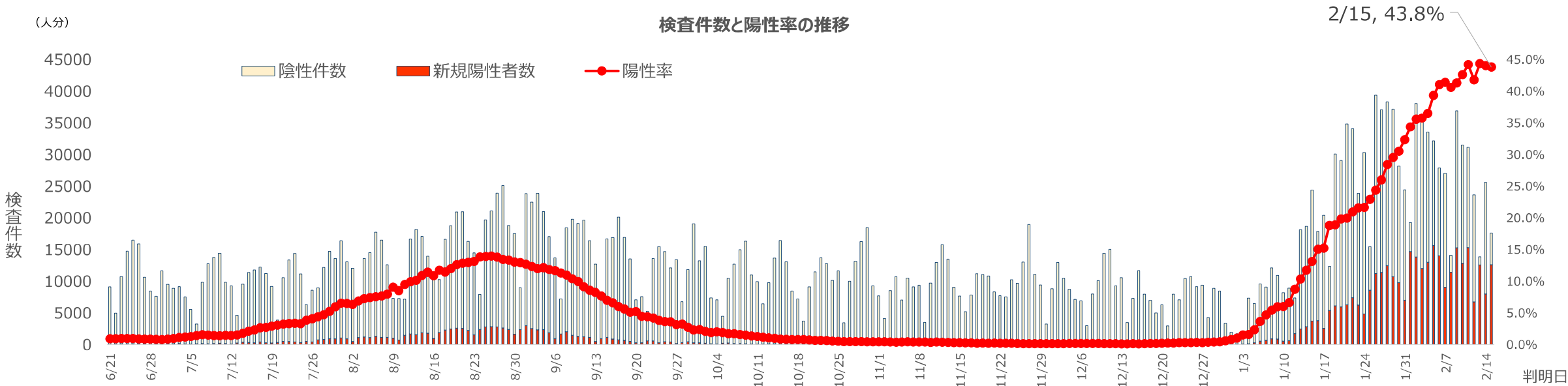
◆ 2月15日は前週同曜日より増加しているが、直近数日の傾向として、感染拡大は抑制。
(本日2月16日の新規陽性者数は12,467人と、前週同曜日比0.82。)

1月	26	27	28	29	30	31	1/1	週合計
	30 (2.31)	11 (3.67)	51 (1.89)	61 (2.54)	52 (1.58)	78 (3.00)	70 (3.18)	353 (2.39)
	2	3	4	5	6	7	8	週合計
	57 (1.90)	79 (7.18)	124 (2.43)	244 (4.00)	505 (9.71)	671 (8.60)	891 (12.73)	2,571 (7.28)
	9	10	11	12	13	14	15	週合計
	876 (15.37)	499 (6.32)	613 (4.94)	1,711 (7.01)	2,452 (4.86)	2,826 (4.21)	3,692 (4.14)	12,669 (4.93)
	16	17	18	19	20	21	22	週合計
	3,760 (4.29)	2,549 (5.11)	5,394 (8.80)	6,101 (3.57)	5,933 (2.42)	6,252 (2.21)	7,375 (2.00)	37,364 (2.95)
	23	24	25	26	27	28	29	週合計
	6,219 (1.65)	4,800 (1.88)	8,612 (1.60)	11,210 (1.84)	11,373 (1.92)	12,476 (2.00)	10,717 (1.45)	65,407 (1.75)
2月	30	31	2/1	2	3	4	5	週合計
	9,749 (1.57)	6,988 (1.46)	14,658 (1.70)	13,837 (1.23)	11,987 (1.05)	12,975 (1.04)	15,630 (1.46)	85,824 (1.31)
	6	7	8	9	10	11	12	週合計
	14,006 (1.44)	9,009 (1.29)	11,409 (0.78)	15,264 (1.10)	12,828 (1.07)	15,301 (1.18)	6,746 (0.43)	84,563 (0.99)
	13	14	15	16	17	18	19	週合計
	12,574 (0.90)	7,997 (0.89)	12,597 (1.10)					

検査件数と陽性率

◆ 陽性率は4割強で高止まり。無料検査の陽性率も約14%と極めて高く、市中で感染がまん延した状態が継続。

【行政検査】



※算出方法：「1週間の陽性者数（疑似症を除く）／1週間の検体採取をした人数」

※1月26日以降における大阪市保健所の陽性者発生届のHER-SYS処理遅延件数は、発生届受理日翌日に概数で計上。今週中に最終値を計上する予定。

【自費検査】

自費検査（府内に営業所がある自費検査のみを提供する民間会社等）及び
新型コロナ検査実施事業者（薬局等）において有料で実施した検査件数

期間	自費検査件数	（参考値）陽性判明数 ※1	陽性判明率
1/17～1/23	27,585 件	767 名	2.8 %
1/24～1/30	23,409 件	935 名	4.0 %
1/31～2/6	16,444 件	803 名	4.9 %

【無料検査】

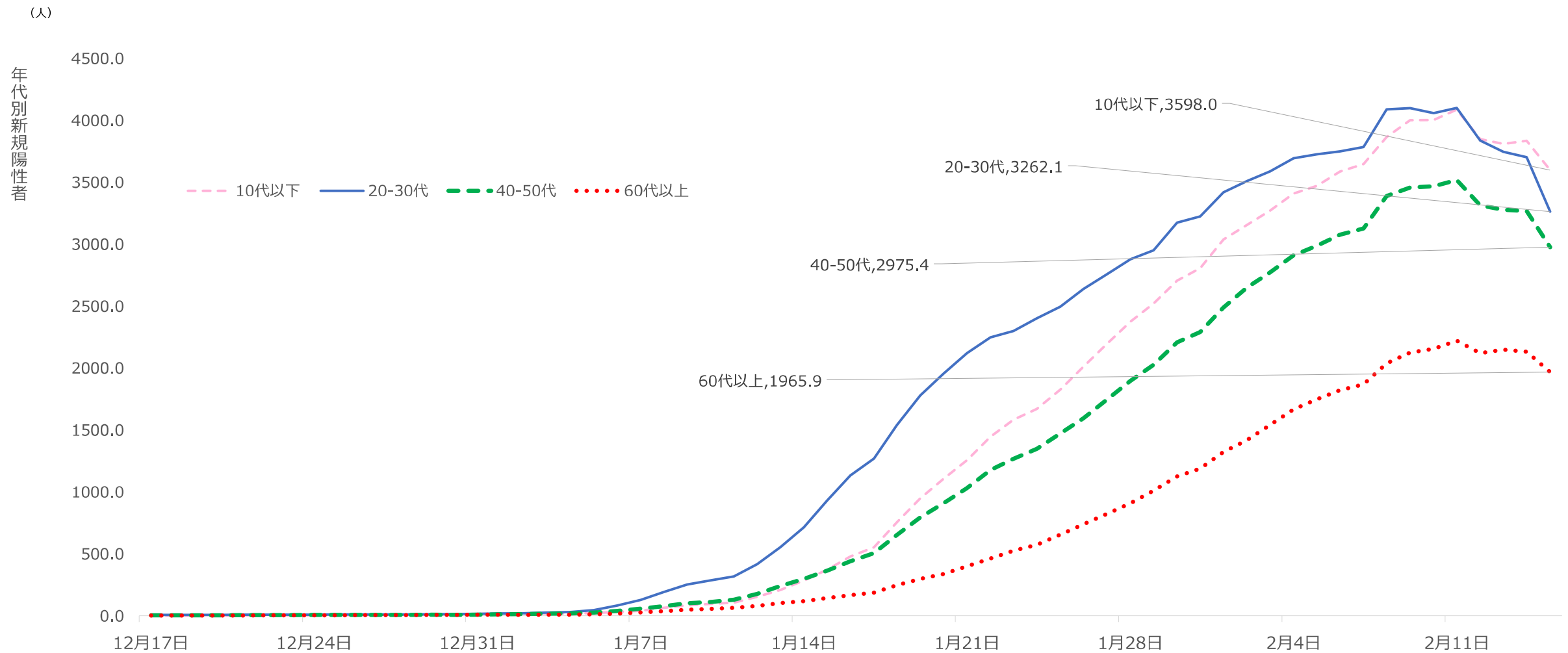
新型コロナ検査実施事業者（薬局等）で実施された検査件数
（ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業と感染拡大傾向時の一般検査事業の合計）

期間	無料検査件数	（参考値）陽性判明数 ※1	陽性判明率
1/17～1/23	66,943 件	5,157 名	7.7 %
1/24～1/30	64,059 件	5,852 名	9.1 %
1/31～2/6	50,979 件	7,211 名	14.1 %

※1 陽性判明数の中には、府外に発生届が提出されている人や確定診断されていない人も含まれるため、陽性判明数は参考値としています。
（陽性者数は、国のシステム（HER-SYS）上、行政検査、自費検査、無料検査のいずれで陽性となったかは区別ができません。）

年代別新規陽性者数の推移（2月15日時点）

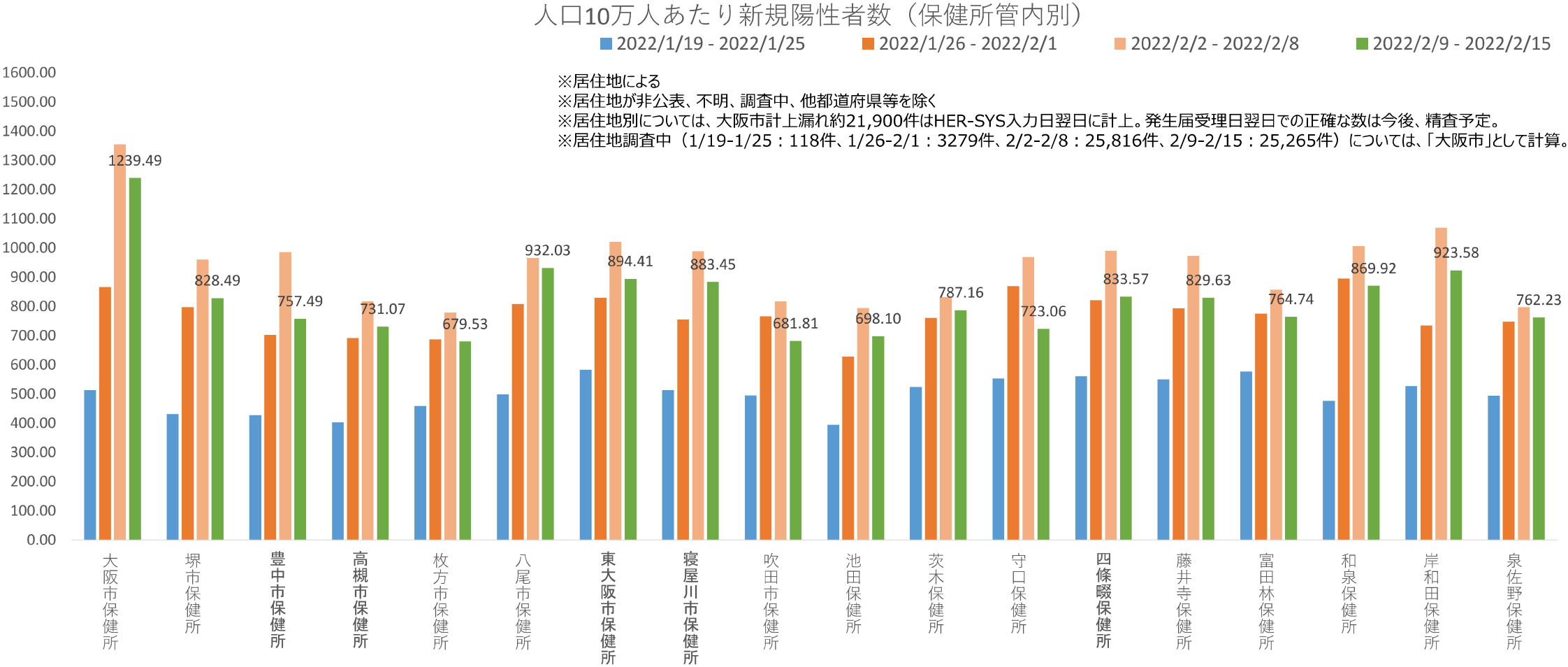
◆ 年代別新規陽性者数移動平均は直近で減少に転じている。



※年代別については、大阪市保健所の計上漏れ約12,700件は、HER-SYSへの入力日の翌日に計上。発生届受理日翌日での正確な数は今後、精査予定。

第六波の保健所管内別陽性者の状況（2月15日時点）

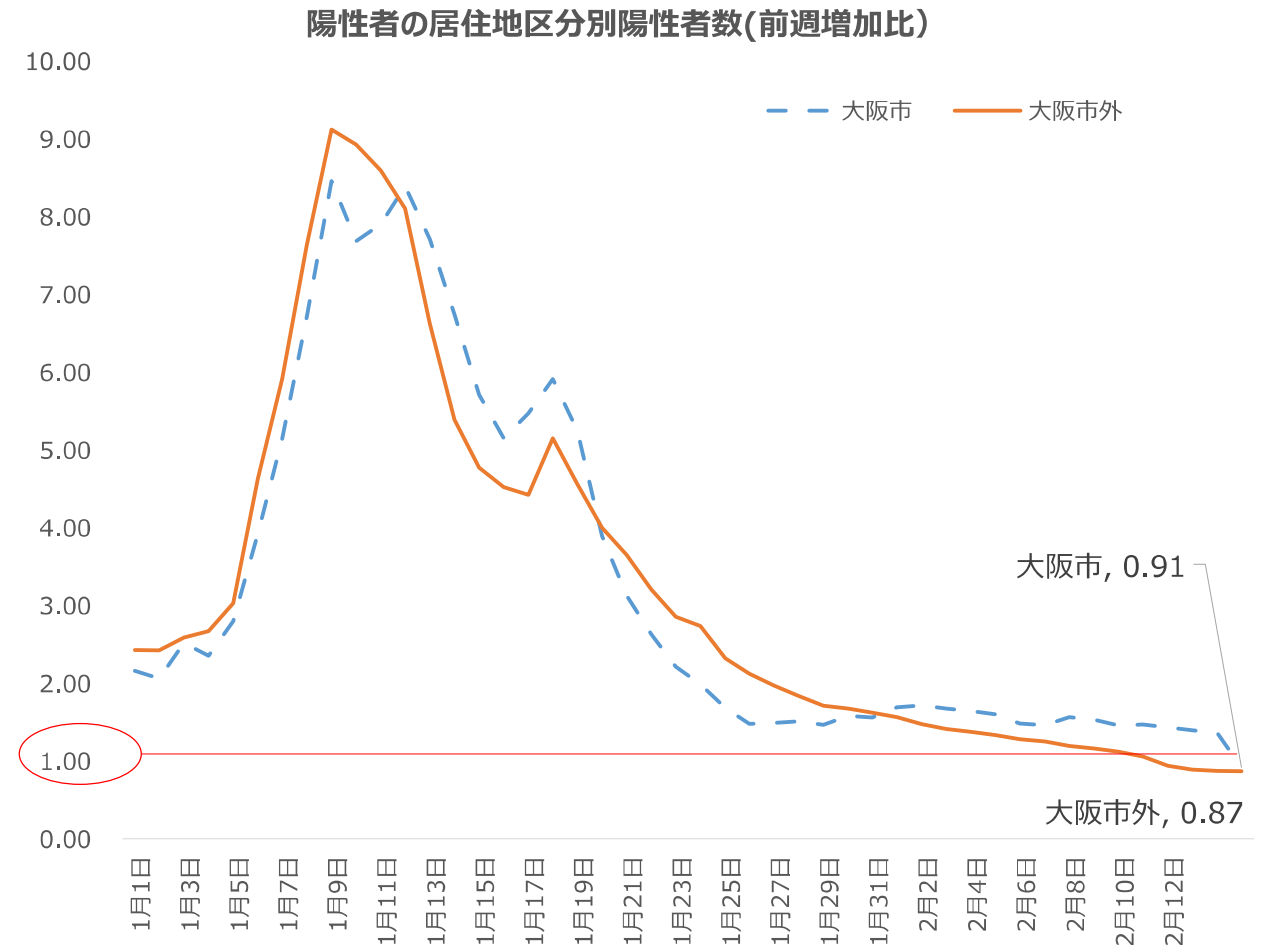
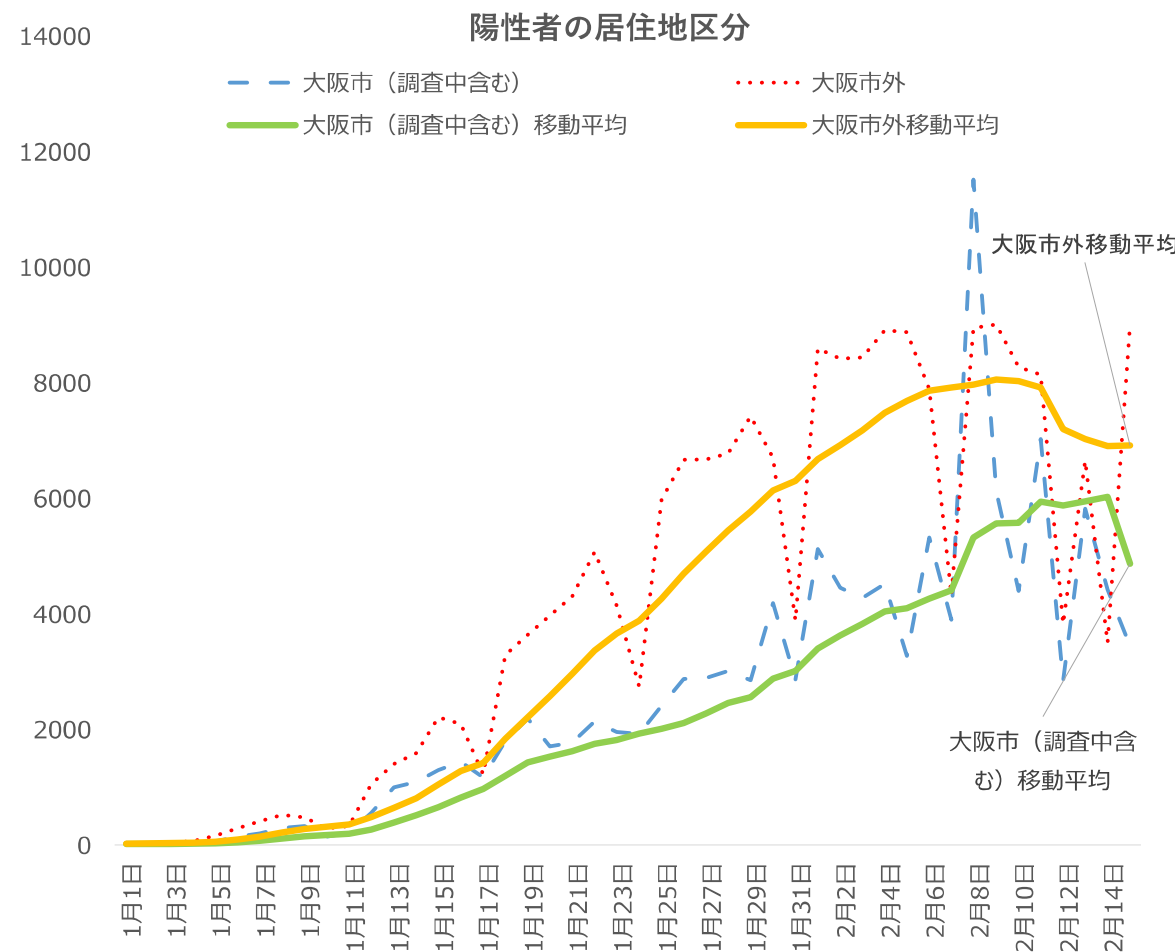
◆ 直近1週間は、各保健所管内別陽性者数が減少に転じている。



【池田】池田市・箕面市・豊能町・能勢町 【茨木】茨木市・摂津市・島本町 【守口】守口市・門真市 【四條畷】大東市・四條畷市・交野市
【藤井寺】松原市・羽曳野市・柏原市・藤井寺市 【富田林】富田林市・河内長野市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村
【和泉】泉大津市・和泉市・高石市・忠岡町 【岸和田】岸和田市・貝塚市 【泉佐野】泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町

大阪市・大阪市内居住地別陽性者数の推移（公表日別 2月15日時点）

- ◆ 大阪市内居住地の陽性者数はやや減少が見られたが、直近は横ばい。
大阪市内居住地の陽性者数は直近で減少。
（大阪市保健所の計上漏れ約12,700件（2月7日時点まで）については、HER-SYSへの入力日の翌日に計上。
また、調査中を全て大阪市保健所の計上漏れ分と仮定して分析。）

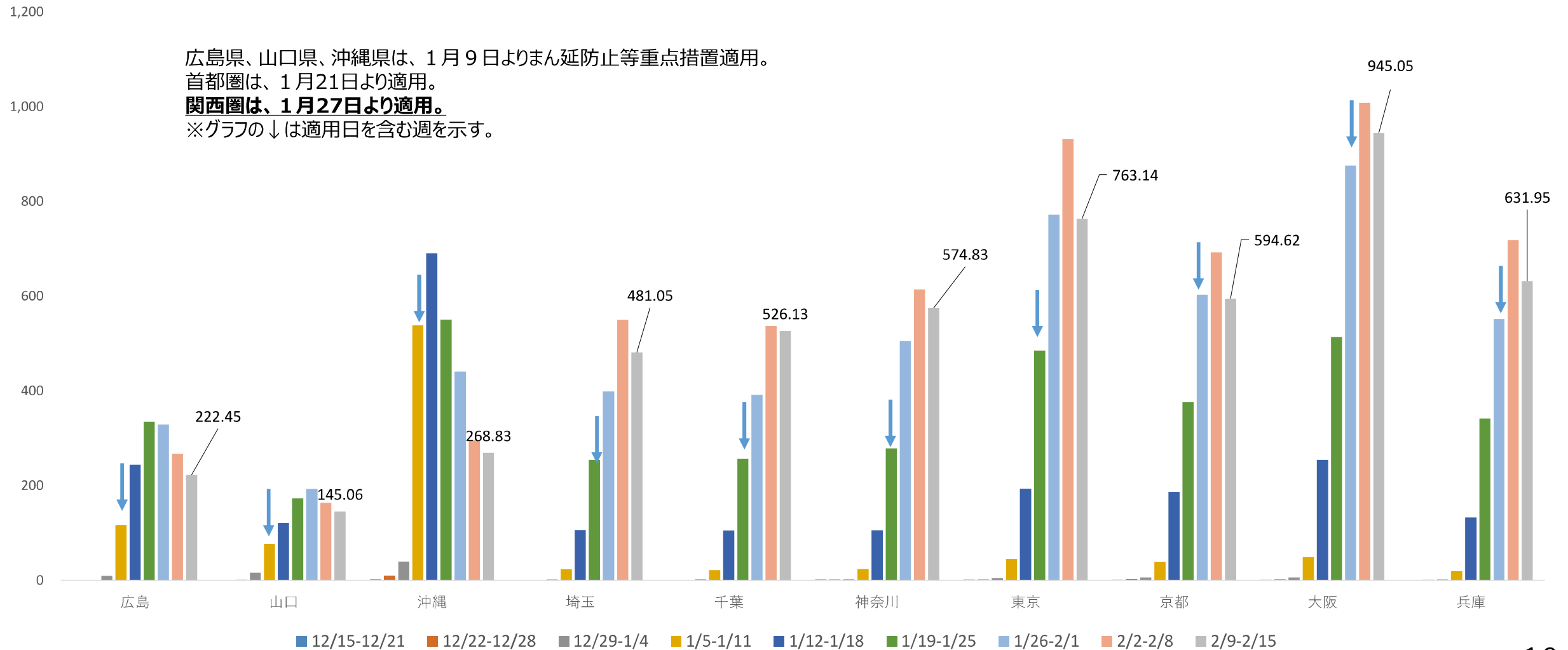


※大阪市保健所の計上漏れ約21900件は、処理遅延件数のHER-SYS入力日翌日で分析。発生届受理日翌日での正確な数は今後、精査予定。
※調査中は、全て大阪市保健所の計上漏れ分と仮定し、大阪市内居住地に計上。

各都道府県 週・人口10万人あたり新規陽性者数(2月15日時点)

※数値は大阪府による
分析に基づく

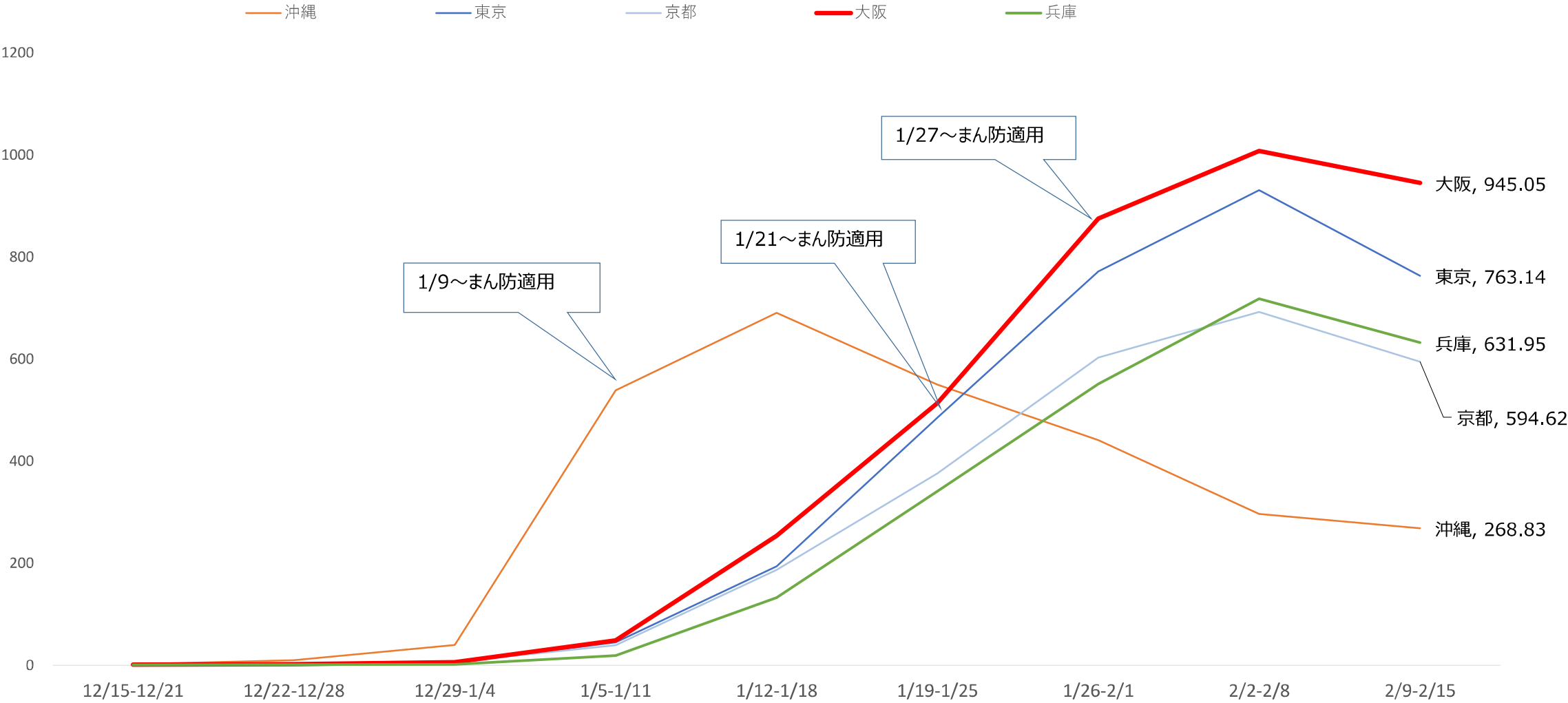
- ◆ 広島県、山口県は、まん延適用から約3週間経過後に減少に転じ始めたが、拡大速度に比べ、減少は極めて緩やか。
関西圏は、まん延防止等重点措置適用が首都圏より1週間遅れたが、首都圏と同様、直近1週間で減少に転じている。



※陽性者数はNHK新型コロナウイルス特設サイトの情報に基づく

各都道府県 週・人口10万人あたり新規陽性者数(2月15日時点)

※数値は大阪府による
分析に基づく



※陽性者数はNHK新型コロナウイルス特設サイトの情報に基づく

「大阪モデル」モニタリング指標等の公表について

◆ トップページに掲載する「大阪モデル」のモニタリング指標等を、2月16日（水）公表より、使用率の分母に、病床確保計画に基づく病床以外に受け入れている病床数を含めることとし、以下の2種類の表を掲載する。

【2月15日公表値】

2月15日現在	重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設	大規模 医療・療養センター
使用率 (入院・宿泊療養者数／ 確保病床・居室数)	33.0% (202/612)	94.1% (3036/3228)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/1000)
運用率 (入院・宿泊療養者数 ／実運用病床・居室数)	54.6% (202/370)	86.5% (3036/3509)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/500)

【2月15日公表値を当てはめた見直し】

(表1) コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を軽症中等症患者に含めた入院・療養状況

2月15日現在	重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設	大規模 医療・療養センター
使用率 (入院・宿泊療養者数 ／ 病床 ・居室数)	32.8% (202/ 616)	86.5% (3036/ 3509)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/1000)
運用率 (入院・宿泊療養者数／ 実運用病床・居室数)	54.6% (202/370)	86.5% (3036/3509)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/500)



(表2) コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を重症患者に含めた入院・療養状況

2月15日現在	重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設	大規模 医療・療養センター
使用率 (入院・宿泊療養者数 ／ 病床 ・居室数)	40.1% (247 / 616)	85.2% (2991 / 3509)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/1000)
運用率 (入院・宿泊療養者数／ 実運用病床・居室数)	66.8% (247 /370)	85.2% (2991 /3509)	24.0% (2750/11477)	0.0% (0/500)

※コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数45人。

※使用率・運用率の病床数には、病床確保計画に基づく確保病床・運用病床以外に受け入れていただいている病床数（重症病床4床、軽症中等症病床281床）を含める。

(病床確保計画に基づく確保病床：重症病床612床、軽症中等症病床3,228床)

※対応できる人材や設備が整っている軽症中等症患者受入医療機関等において、治療継続をしている重症者数●人（重症者数計●人）

「大阪モデル」モニタリング指標の状況

◆ 「大阪モデル」のモニタリング指標について、2月16日（水）公表より、使用率の分母に、病床確保計画に基づく病床以外に受け入れている病床数を含めることとする（2月15日までの公表値については遡っての修正は行わない。）
（修正）病床使用率分母 3840床⇒4125床 重症病床使用率分母 612床⇒616床
軽症中等症病床使用率分母 3228床⇒3509床

	警戒の目安	非常事態の 目安	非常事態解除 の目安	警戒解除の 目安	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16 (※)
直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者 数（疑似症患者を含む）	35人以上 (※1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					1024.15	1033.69	1060.08	959.30	943.05	931.57	945.05	945.05
病床使用率 重症・軽症中等症ともに確保病床数	20%以上	50%以上	7日間連続 50%未満	7日間連続 20%未満	—	—	—	—	—	—	—	—
					82.1%	82.6%	83.1%	93.1%	103.1%	104.4%	84.3%	78.5%
重症病床使用率 災害級非常事態の確保病床数	10%以上	40%以上	7日間連続 40%未満	7日間連続 10%未満	—	—	—	—	—	—	—	—
					26.6%	29.9%	30.1%	31.5%	31.2%	33.2%	33.0%	32.8%
信号（一定期間点灯させた後、消灯）	上記いずれかが 目安に達した場合（※2） 黄	上記いずれかが 目安に達した場合 赤	上記全てが 目安に達した場合 黄	上記全てが 目安に達した場合 緑	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
（※2） 新規陽性者数の前週増加比	4日間連続 1 を超過	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					1.13	1.13	1.15	0.99	0.92	0.89	0.94	0.94
○：基準内 ●：基準外												
【参考指標の状況】												
軽症中等症病床使用率	—	—	—	—	92.8%	92.7%	93.3%	104.9%	116.9%	117.9%	94.1%	86.5%
宿泊療養施設居室使用率	—	—	—	—	27.3%	27.9%	27.9%	27.3%	25.6%	25.3%	24.0%	24.0%
大規模医療・療養センター病床使用率	—	—	—	—	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

※ 2月15日の数値を仮で当てはめたものであり、16日公表予定の数とは異なる

年齢別ワクチン接種率及び新規陽性者数

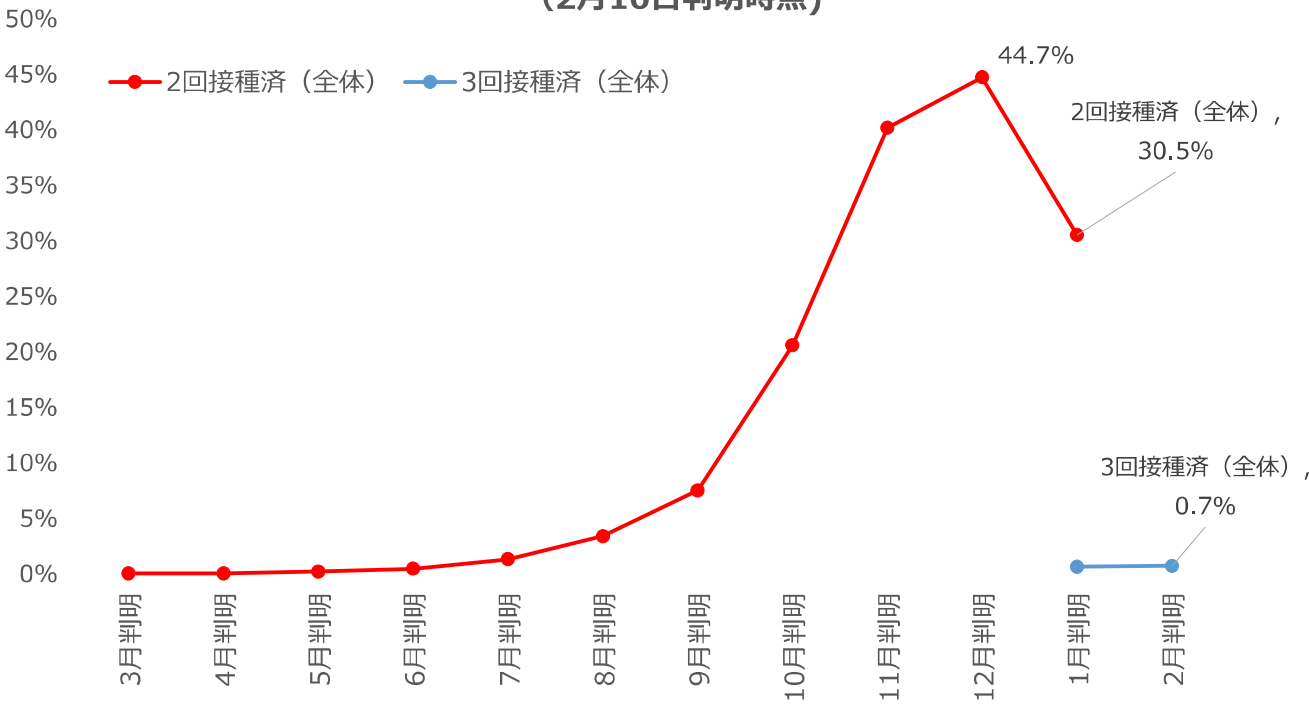
- ◆ 3回目接種の割合は、65歳以上で約2割を超過。
- ◆ 新規陽性者における2回接種済者等の割合は、保健所の業務重点化に伴い、把握できる範囲で分析。
(1月判明の割合低下は、若者の増加によるものか、接種状況把握の限界によるものかなど、要因の明確化は困難)

【ワクチン接種状況】

	人口	1回目接種	2回目接種	3回目接種
		接種割合	接種割合	接種割合
65歳以上	2,385,612	92.8%	92.5%	22.5%
60～64歳	459,527	91.4%	91.1%	4.9%
50歳代	1,219,649	90.4%	90.0%	4.5%
40歳代	1,322,085	80.1%	79.6%	4.0%
30歳代	1,014,384	76.4%	75.6%	3.2%
20歳代	979,470	74.8%	73.8%	2.7%
18、19歳（推計）	161,012	73.4%	72.3%	0.2%
12～17歳（推計）	466,719	64.7%	63.0%	
不明				
合計（全人口）	8,839,511	76.6%	76.0%	8.2%
合計(12歳以上)	8,008,458	84.6%	83.9%	9.1%
合計(18歳以上)	7,541,739	85.8%	85.2%	9.6%
※追加接種対象者（～2月末）	2,501,582			29.1%

※府民全体のワクチン接種率（状況）：2月14日に国提供資料から作成

新規陽性者における2回接種済者等の割合の推移（判明月別）
(2月10日判明時点)



※陽性者のワクチン接種状況及び発症日は保健所による聞き取りやHER-SYSデータに基づく（2月10日判明時点）

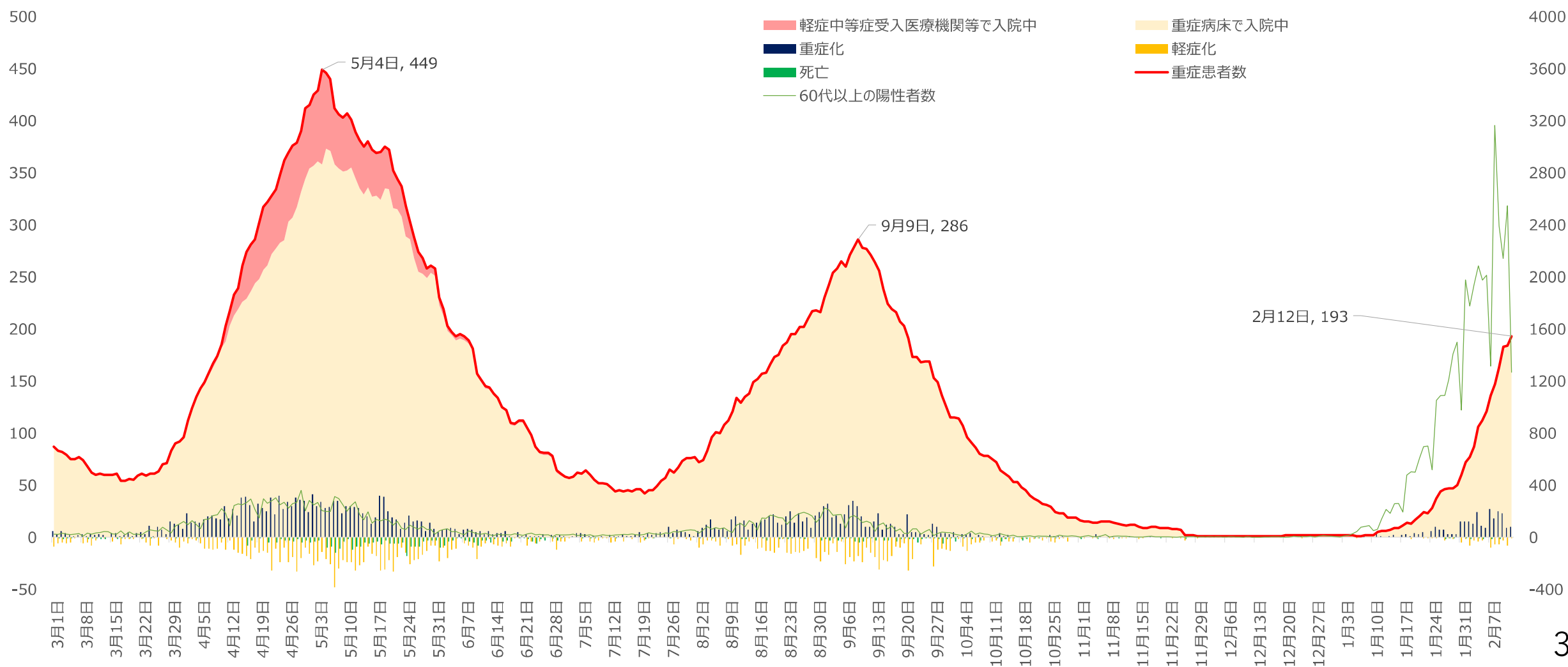
- | | | |
|---|------------|---------|
| 1 | 入院・療養状況 | P 2 ～11 |
| 2 | 重症・死亡例のまとめ | P12～18 |

1 入院・療養状況

【第四波以降】60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（令和4年2月12日時点）

◆ 第六波では、60代以上の新規陽性者数の発生規模に比して重症者数は少ないが（オミクロン株の特徴）、現時点では、軽症化している人数が少ない（遅れて軽症化の人数が増える可能性あり）。

【第四波以降】60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）



新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況【重症】

◆ コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を含めた病床使用率は40.4%。運用率（非常事態のフェーズ4で運用中）は54.6%であるが、医療機関でクラスターが発生するなど、受入困難な医療機関もあり、運用体制としてはひっ迫。一般医療を一部制限の上（不急の予定入院・手術の延期）患者受入体制を確保。

● 確保病床と使用率

2月15日現在 **病床使用率33.0%（※40.4%）**

確保病床数 612床 入院患者数 202人（※247人）

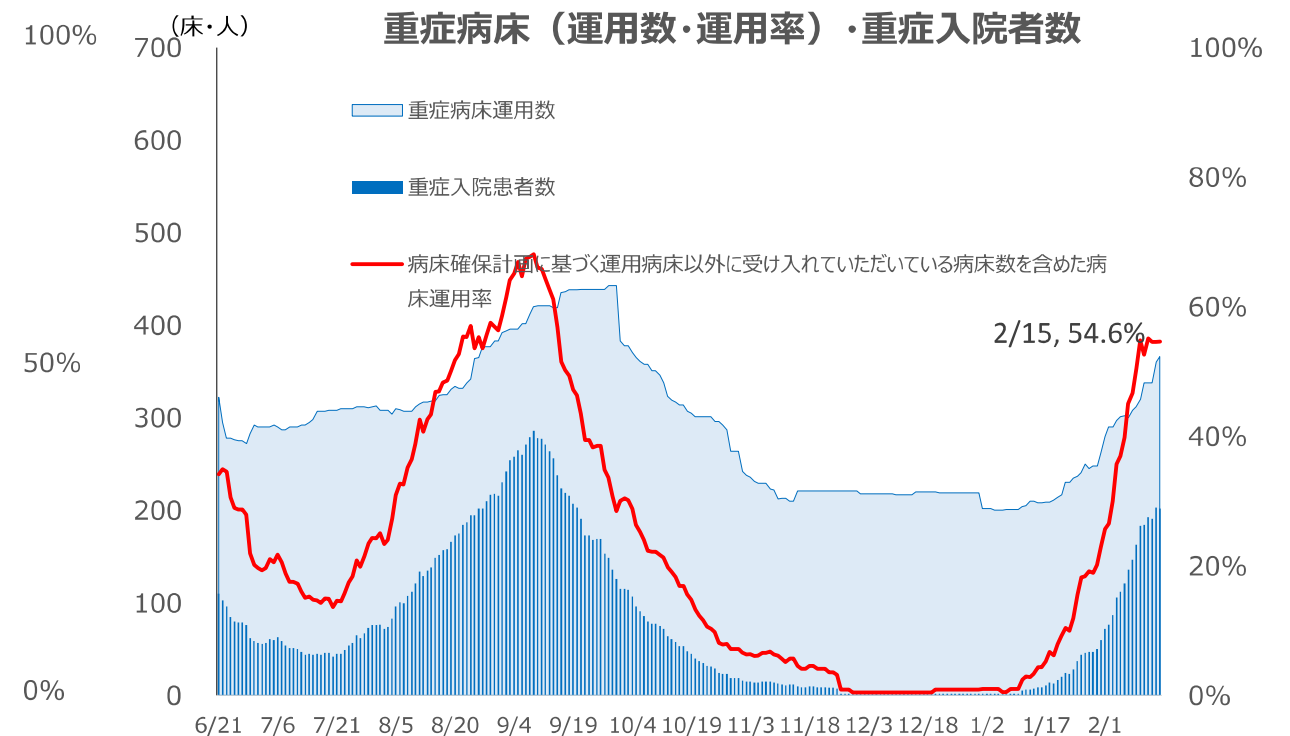
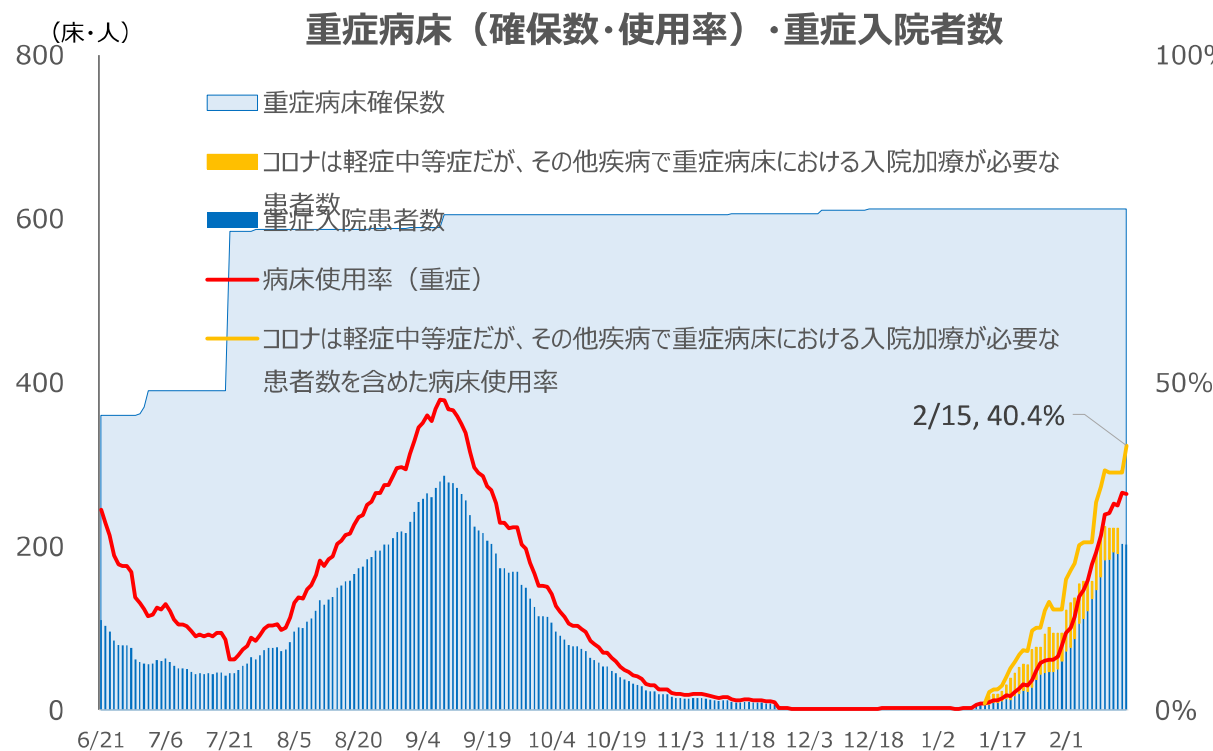
※コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数45人を含めた場合の患者数及び使用率

● 運用病床と運用率

2月15日現在 **病床運用率54.6%（※）**

運用病床数 370床 入院患者数 202人

※病床確保計画に基づく運用病床以外に受け入れていただいている病床数4床を含めた運用率



新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況【軽症中等症】

◆ 軽症中等症病床は使用率、運用率ともに極めてひっ迫。

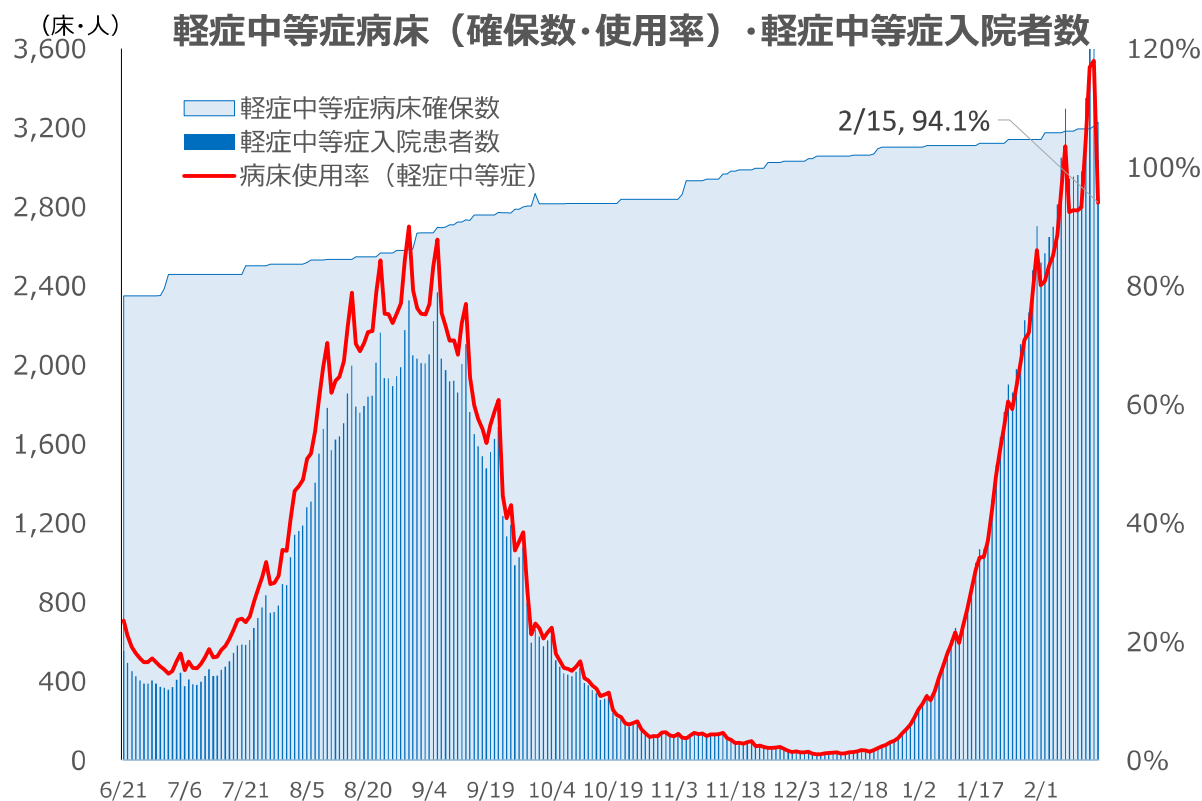
※13日に100%を超過しているが、医療機関休診により、退院状況の確認が困難な場合、退院者が入院患者に含まれることから、翌日公表する入院患者数が、実入院患者数を上回ったもの。

● 確保病床と使用率

2月15日現在 **病床使用率94.1%**

確保病床数 3,228床 入院患者数3,036人※

※コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数45人を含む。



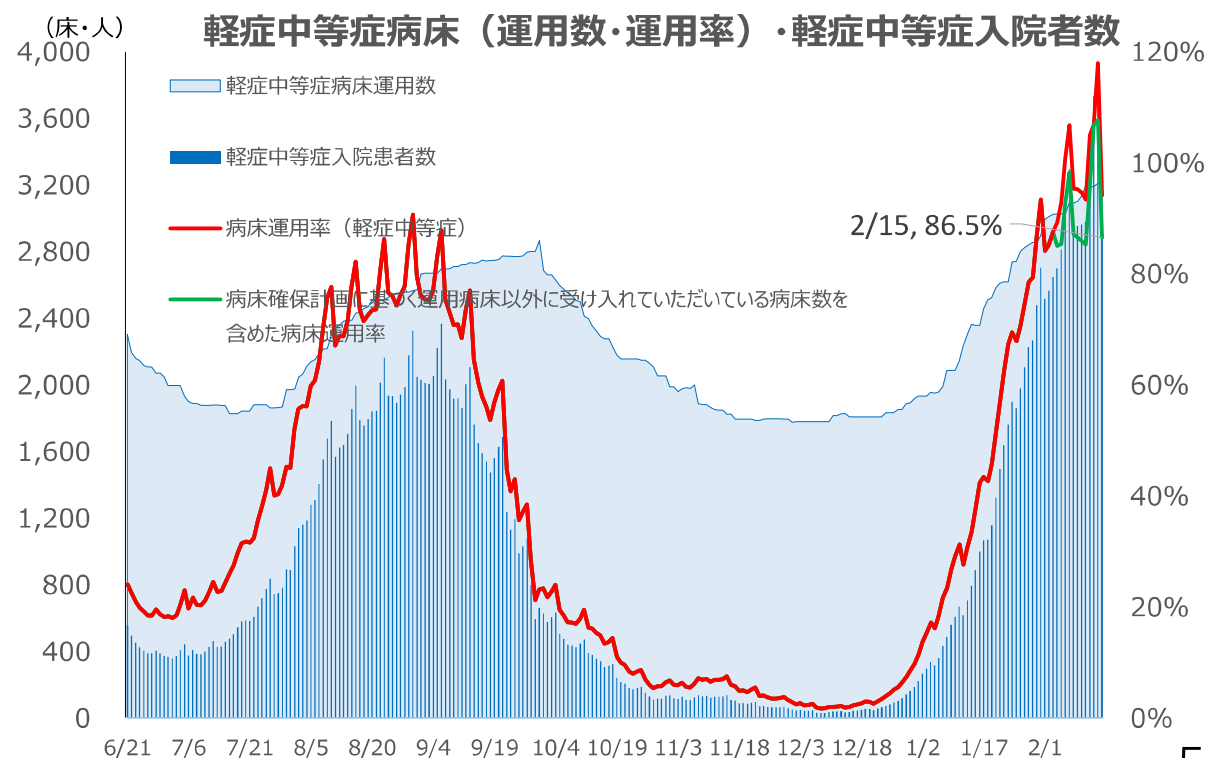
● 運用病床と運用率

2月15日現在 **病床運用率86.5%** (※1)

運用病床数 3,509床 入院患者数3,036人 (※2)

※1 病床確保計画に基づく運用病床以外に受け入れていただいている病床数281床を含めた運用率

※2 コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数45人を含む。



新型コロナウイルス感染症宿泊・自宅療養者、入院・療養等調整中者数

- ◆ 宿泊療養施設居室使用率、運用率ともに24.0%。
- ◆ 現在、自宅待機している方（自宅療養者数、入院・療養等調整中者数の合計）は、約134,000人。

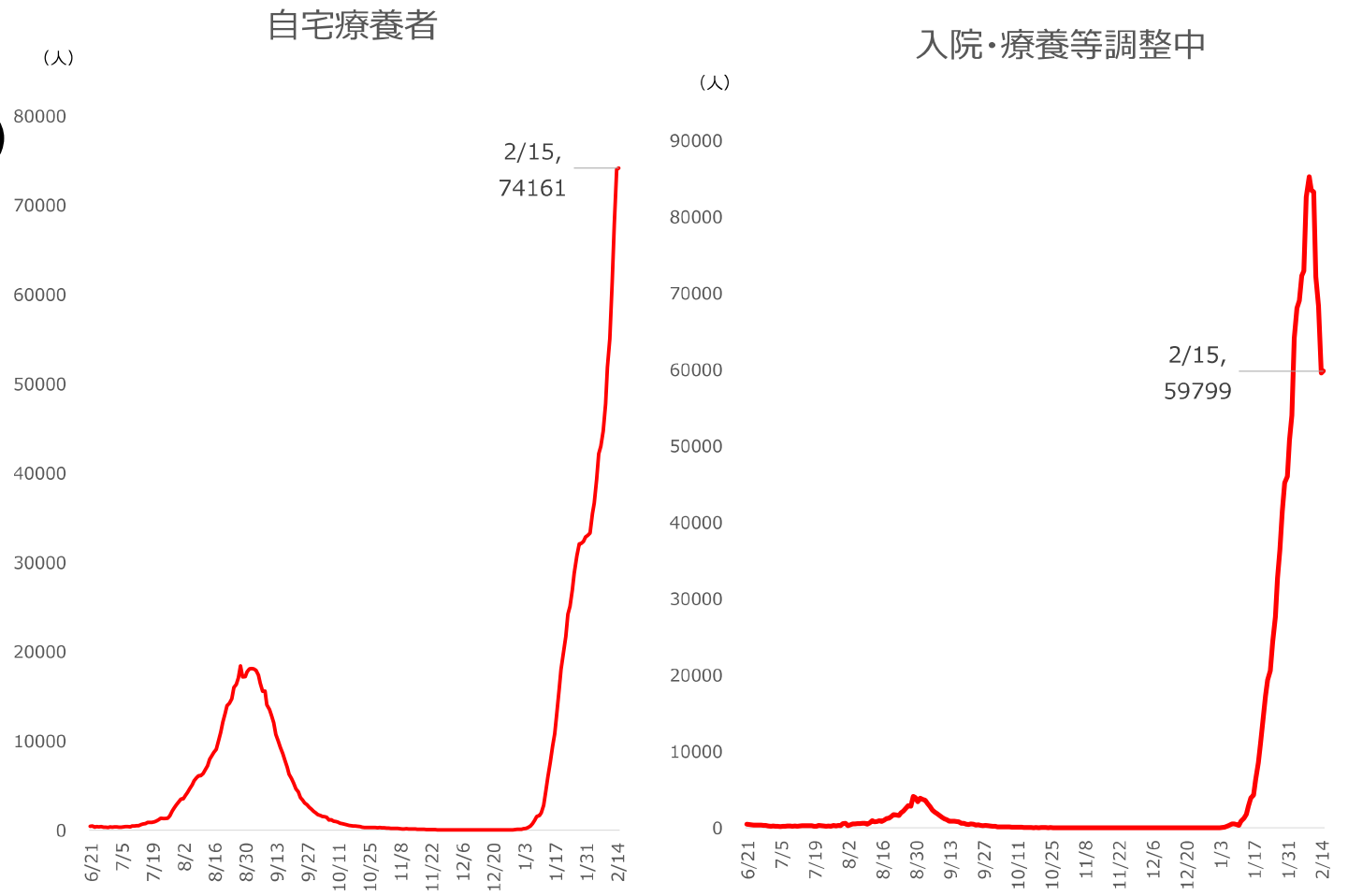
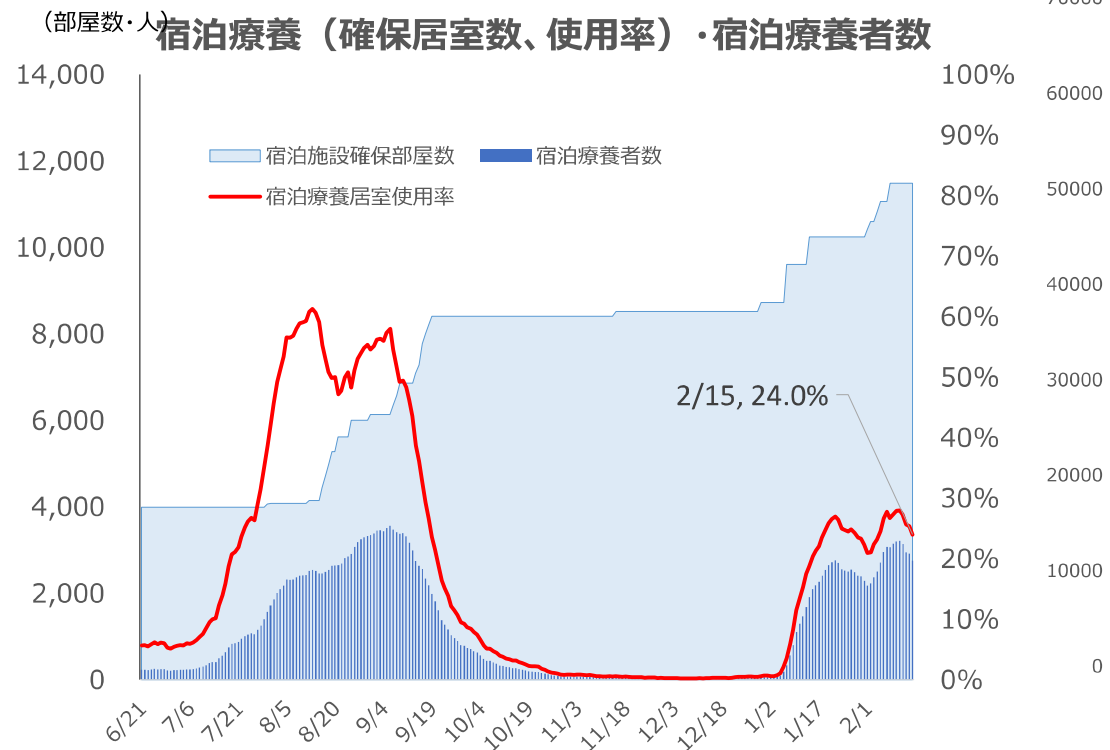
● 宿泊療養施設使用状況

2月15日現在 **使用率24.0%**

居室使用数11,477室 療養者数 2,750人

運用率24.0%（運用居室数 11,477室）

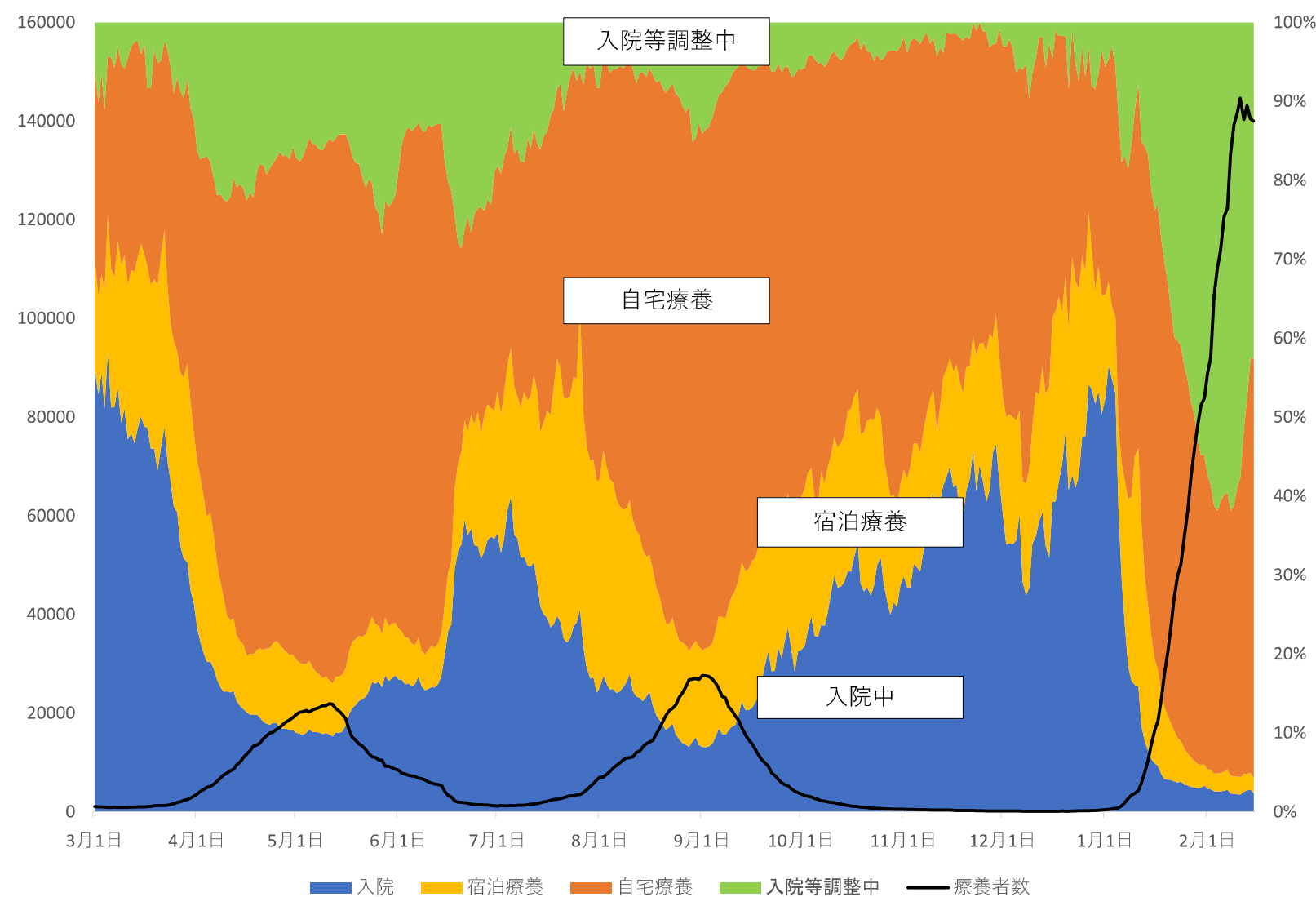
● 自宅療養者数と入院・療養等調整中の数



上記以外に、大阪コロナ大規模医療・療養センター（無症状・軽症者用）（1月31日運用開始） 2/15時点 使用率0.1%（1/1,000）、運用率0.2%（1/500）

入院・療養状況（2月15日時点）

◆ 入院率は、2月15日時点で2.3%。



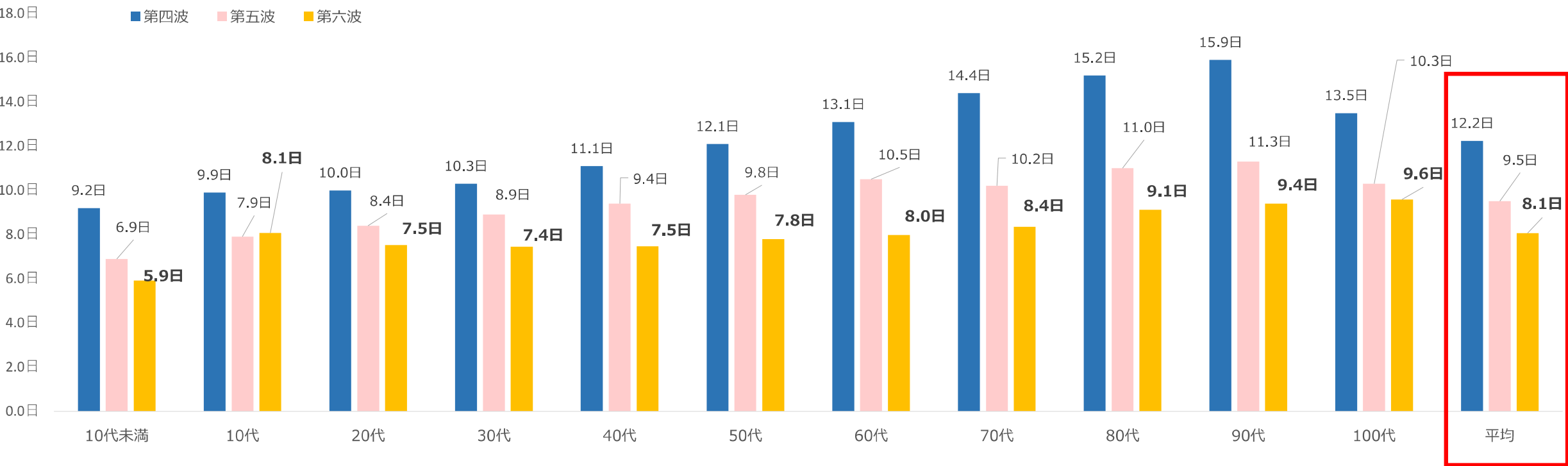
	第四波 (5/11)	第五波 (9/1)	2 / 15
入院等調整中	14.7%	14.1%	42.7%
自宅療養	68.6%	65.5%	53.0%
宿泊療養	6.8%	12.2%	2.0%
入院中	9.8%	8.2%	2.3%
療養者数	21,900人	27,587人	139,948人

第四波、第五波は、最大療養者数となった日

※ 1月5日に患者の全員入院対応。1月7日、1月25日に入院・宿泊療養対象を見直し

第四波～第六波 軽症中等症病床における入院患者の平均入院日数（令和4年2月10日時点）

◆ 軽症中等症病床における入院患者の平均入院日数は、第四波では平均12.2日だったが、第五波では平均9.5日、第六波では平均8.1日と短くなっている。ただし、今後、高齢者の入院患者の増加により長期化する可能性。



【退院患者数】

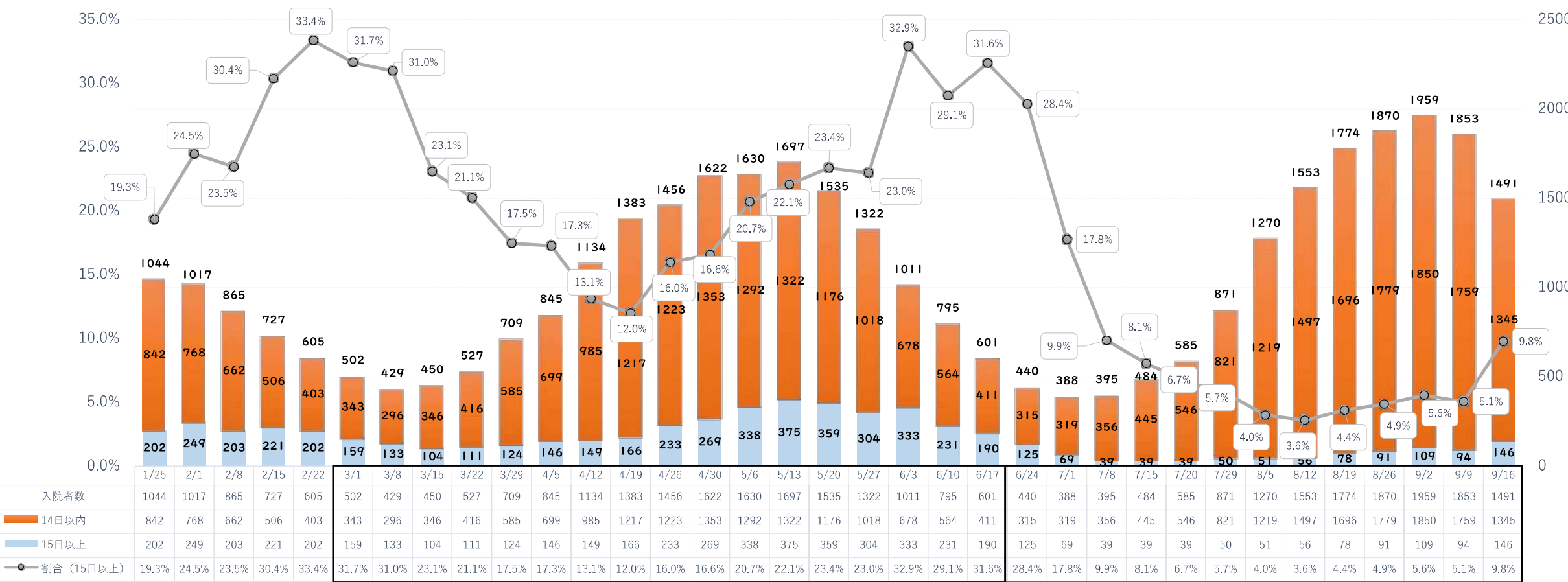
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	合計
第四波	52人	77人	250人	342人	707人	1090人	982人	1137人	743人	180人	12人	5572人
第五波	138人	242人	961人	1315人	1865人	2176人	895人	579人	391人	69人	3人	8634人
第六波	32人	11人	32人	59人	109人	189人	258人	732人	1062人	393人	22人	2899人

※第四波は、R3.3.1～3.6.20の間に陽性が判明した患者で退院済の者を計上 ※第五波は、R3.6.21～3.9.15の間に陽性が判明した患者で退院済の者を計上
※第六波は、R3.12.17～R4.2.10の間に陽性が判明した患者で退院済の者を計上
※陽性判明日が不明の患者は除く

出典：入院フォローアップセンターのヒアリング結果

第四波・第五波 軽症中等症病床における長期入院者（15日以上の患者）の状況
 （9月16日時点）

◆ 総入院患者に占める長期入院患者（15日以上）の割合は、第四波は平均で22.5%、第五波で8.8%。
 （第五波における当該割合の減少は、入院が長期化する傾向にある60歳以上の入院患者の割合が第四波と比して著しく減少したことが一つの要因として考えられる。）



長期入院患者の平均割合：22.5%

※第四波期間中（3/1～6/20）

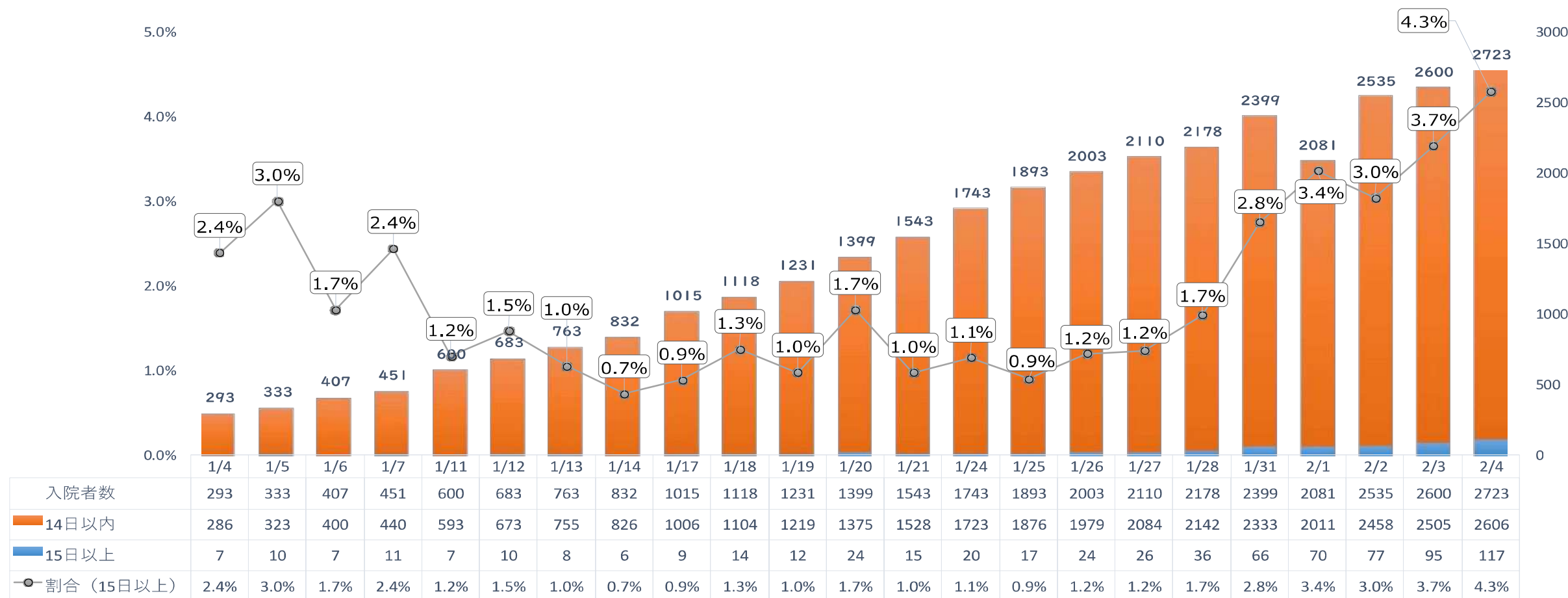
長期入院患者の平均割合：8.8%

※第五波期間中（6/21～9/16時点）

出典：入院フォローアップセンターのヒアリング結果から

第六波 軽・中等症病床における長期入院患者の状況（15日以上の入院患者の推移）

- ◆ 第六波では、入院患者のほとんどが、14日以内に退院しており、1月4日から2月4日までの総入院患者に占める15日以上の患者の割合は、平均2.1%と第五波の平均8.8%から大きく減少。
ただし、直近では、入院患者に占める高齢者の増加に伴い、増加傾向。



長期入院患者の平均割合：2.1%

※第六波期間中（1/4～2/4時点）

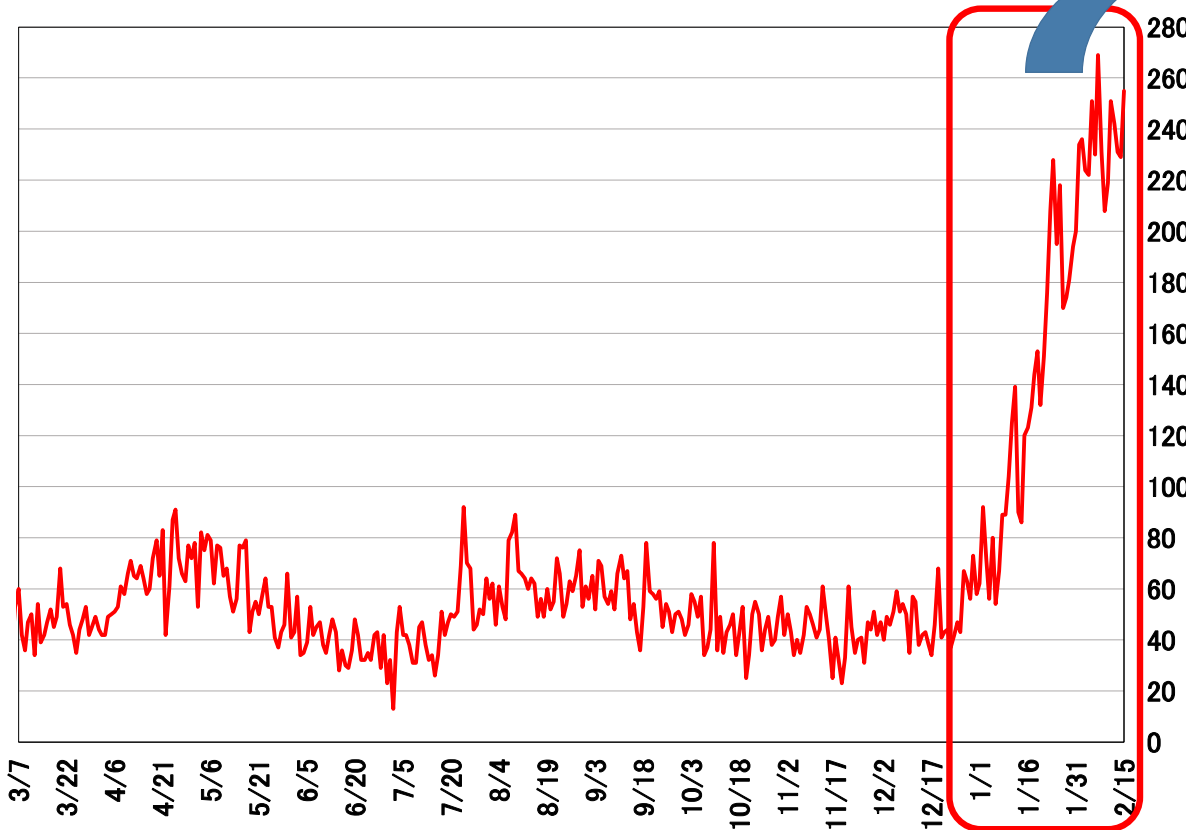
出典：入院フォローアップセンターのヒアリング結果から

一般救急患者の搬送困難事案件数

◆ 年明け以降の急激な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、府内の救急患者の搬送において、搬送困難事案（※）の件数が高水準で発生しており、一般救急医療がひっ迫。

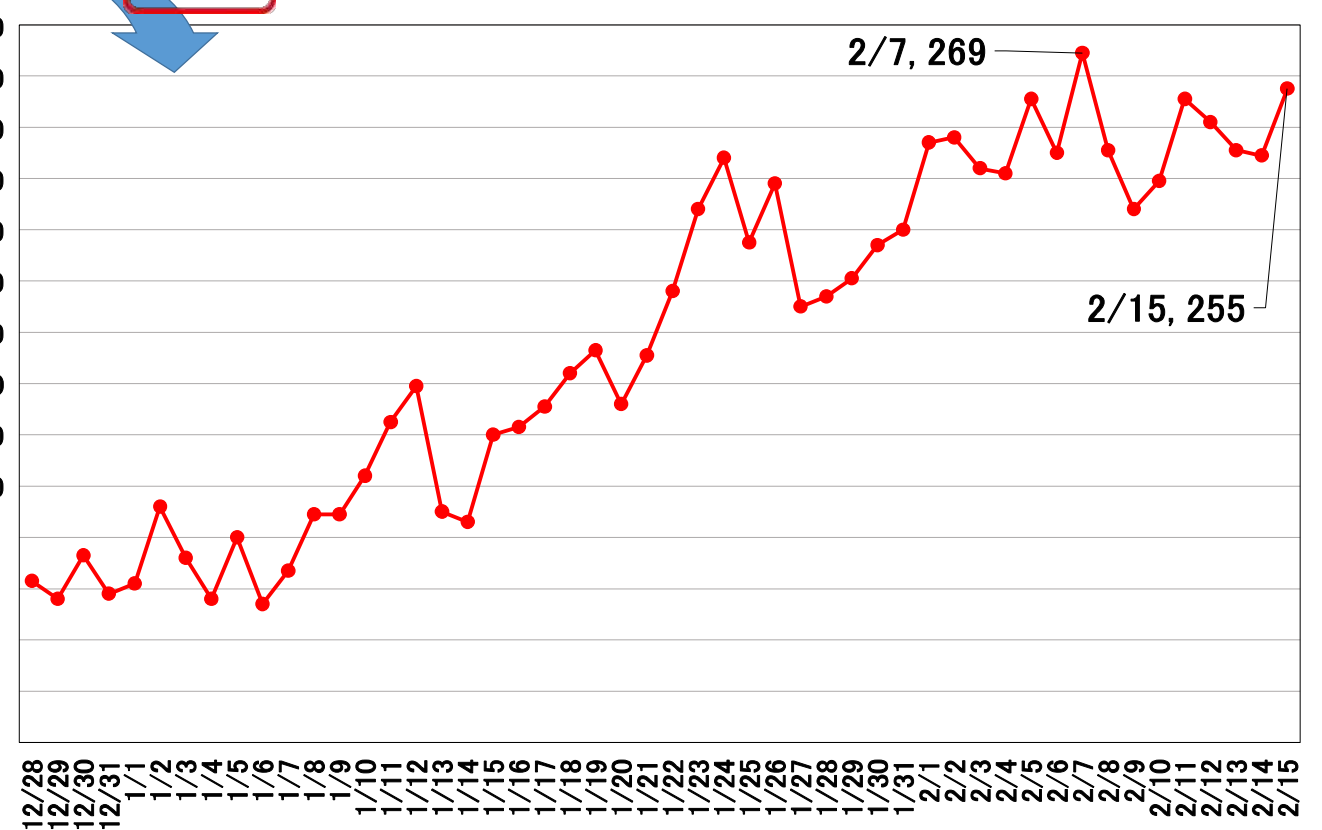
（※）「医療機関への受入照会回数4回以上」かつ「現場滞在時間30分以上」の事案

大阪府（全圏域）における搬送困難事案件数（第四波以降）



拡大

大阪府（全圏域）における搬送困難事案件数（年末以降）



※府内の救急告示医療機関における院内感染や発熱外来受診患者の増加に伴い、救急診療制限等が生じ、搬送困難事案件数が増加しているものと考えられる。
そのほか、新型コロナ患者の受入れや発熱外来の体制の確保等、診療体制の変更（人員配置等）による影響も考えられる。

2 重症・死亡例のまとめ

(資料1-3にも一部記載)

年代別重症化率及び死亡率の推移（陽性判明日別）（令和4年2月12日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

重症化率	第一波 (R2.1/29-6/13)			第二波 (R2.6/14-10/9)			第三波 (R2.10/10-R3.2/28)			第四波 (R3.3/1-6/20)			第五波 (R3.6/21-12/16)			第六波（2/12時点） (R3.12/17-)		
	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率
19歳以下	79	1	1.3%	839	0	0.0%	3704	1	0.0%	6629	2	0.0%	22424	3	0.0%	82175	4	0.00%
20・30代	654	7	1.1%	4420	3	0.1%	11733	16	0.1%	19778	61	0.3%	44077	99	0.2%	97368	4	0.00%
40・50代	564	36	6.4%	2207	52	2.4%	9845	184	1.9%	15845	494	3.1%	26463	554	2.1%	69697	47	0.07%
60代以上	489	103	21.1%	1805	177	9.8%	10782	947	8.8%	12950	1200	9.3%	7821	368	4.7%	38688	229	0.59%
総計	1786	147	8.2%	9271	232	2.5%	36064	1148	3.2%	55318	1757	3.2%	100891	1024	1.0%	288929	284	0.10%

死亡率	第一波 (R2.1/29-6/13)			第二波 (R2.6/14-10/9)			第三波 (R2.10/10-R3.2/28)			第四波 (R3.3/1-6/20)			第五波 (R3.6/21-12/16)			第六波（2/12時点） (R3.12/17-)		
	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率
19歳以下	79	0	0.0%	839	0	0.0%	3704	0	0.0%	6629	0	0.0%	22424	1	0.0%	82175	0	0.00%
20・30代	654	0	0.0%	4420	0	0.0%	11733	1	0.0%	19778	7	0.0%	44077	4	0.0%	97368	0	0.00%
40・50代	564	6	1.1%	2207	4	0.2%	9845	17	0.2%	15845	88	0.6%	26464	63	0.2%	69697	10	0.01%
60代以上	489	81	16.6%	1805	138	7.6%	10782	920	8.5%	12950	1444	11.2%	7820	290	3.7%	38688	266	0.69%
総計	1786	87	4.9%	9271	142	1.5%	36064	938	2.6%	55318	1539	2.8%	100891	358	0.4%	288929	276	0.10%

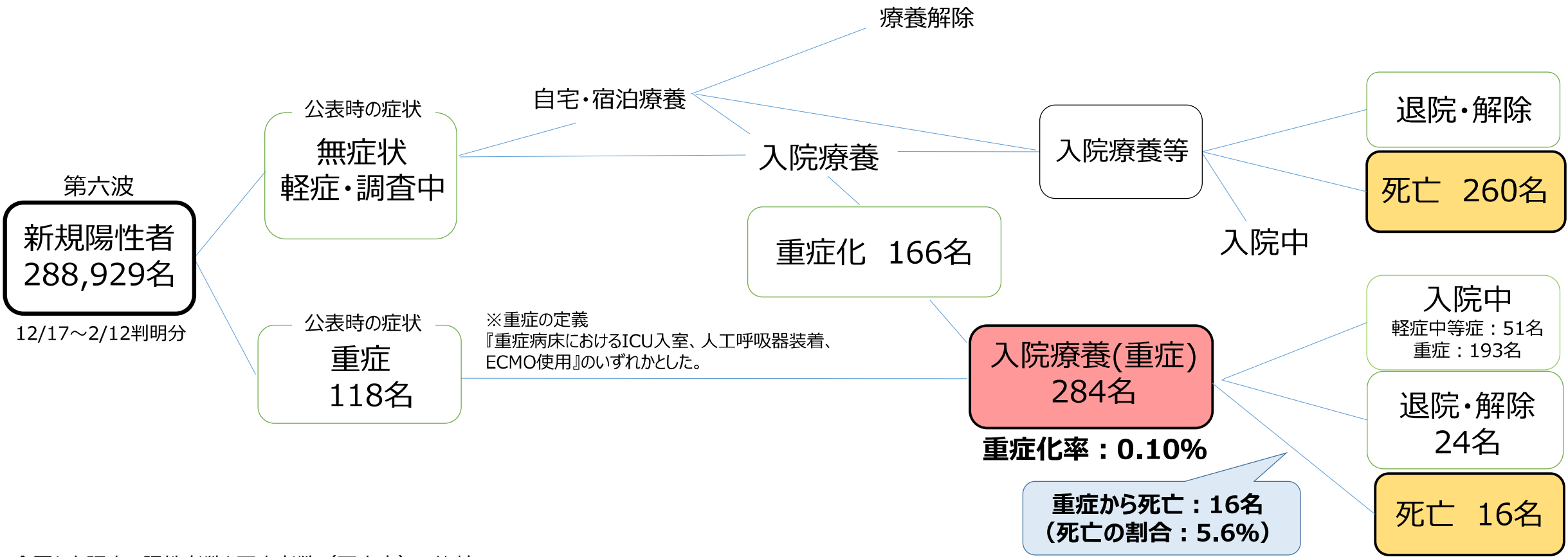
※死亡率：新規陽性者数に占める死亡者の割合。

※重症化率及び死亡率は2月12日判明時点までの重症及び死亡者数に基づく。今後、重症及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

【第六波】重症及び死亡例のまとめ（令和4年2月12日判明時点）

重症及び死亡例の経過

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

	累計 陽性者数	第一波	第二波	第三波	第四波	第五波	第六波	死亡者数 (死亡率)	第一波	第二波	第三波	第四波	第五波	第六波
		2020年 6/13まで	6/14～ 10/9	10/10～ 2/28	3/1～ 6/20	6/21～ 12/16	12/17～ 2/12		2020年 6/13まで	6/14～ 10/9	10/10～ 2/28	3/1～ 6/20	6/21～ 12/16	12/17～ 2/12
大阪府	492,259	1,786	9,271	36,064	55,318	100,891	288,929	3,340 (0.7%)	87 (4.9%)	142 (1.5%)	938 (2.6%)	1,539 (2.8%)	358 (0.4%)	276 (0.10%)
全国	3,753,905	17,179	70,012	343,342	350,398	943,478	2,029,496	20,051 (0.5%)	925 (5.4%)	698 (1.0%)	6,262 (1.8%)	6,510 (1.9%)	3,973 (0.4%)	1,683 (0.08%)

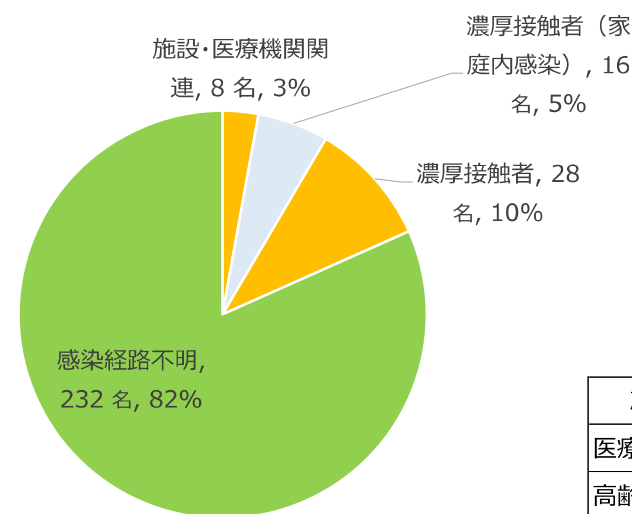
※チャーター機帰国者、クルーズ船乗客、空港検疫は含まれていない。全国は厚生労働省公表資料（2/12の国内の発生状況）より集計。

※重症率及び死亡率は2月12日判明時点
までの重症及び死亡者数に基づく。今後、
重症及び死亡者数・新規陽性者数の推
移により変動

【第六波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和4年2月12日時点） 死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

◆ 死亡例について推定される感染経路は施設・医療機関関連が約3割（第四波と同程度）。

重症例（N＝284）について推定される感染経路

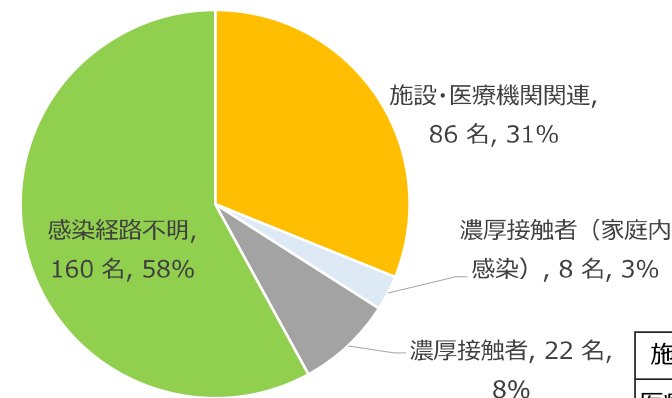


施設・医療機関関連（8名）の内訳	
医療機関関連	5
高齢者施設関連	3

年代	重症例 総数	感染経路内訳				陽性者 総数	重症化率
		施設・ 医療機関関連	濃厚接触者 （家庭内感染）	濃厚 接触者	感染 経路不明		
10歳未満	3				3	36,938	0.01%
10代	1		1			45,236	0.00%
20代	2		1		1	54,284	0.00%
30代	2			1	1	43,082	0.00%
40代	17		1	2	14	41,834	0.04%
50代	30	1	3	1	25	27,863	0.11%
60代	44			4	40	14,940	0.29%
70代	104	1	7	9	87	12,163	0.86%
80代	71	3	3	10	55	8,391	0.85%
90代	10	3		1	6	3,035	0.33%
計	284	8	16	28	232	—	—

死亡例（N＝276）について推定される感染経路

※重症例284例のうち、16例は死亡のため重複あり



施設・医療機関関連（86名）の内訳	
医療機関関連	52
高齢者施設関連	34

年代	死亡例 総数	感染経路内訳				陽性者 総数	死亡率
		施設・ 医療機関関連	濃厚接触者 （家庭内感染）	濃厚 接触者	感染 経路不明		
40代	6			1	5	41,834	0.01%
50代	4			2	2	27,863	0.01%
60代	15	3			12	14,940	0.10%
70代	60	20	3	3	34	12,163	0.49%
80代	113	38	3	8	64	8,391	1.35%
90代	72	23	2	8	39	3,035	2.37%
100代	6	2			4	161	3.73%
計	276	86	8	22	160	—	—

【第四波以降】重症者のまとめ（令和4年2月12日時点）

※第四波の重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

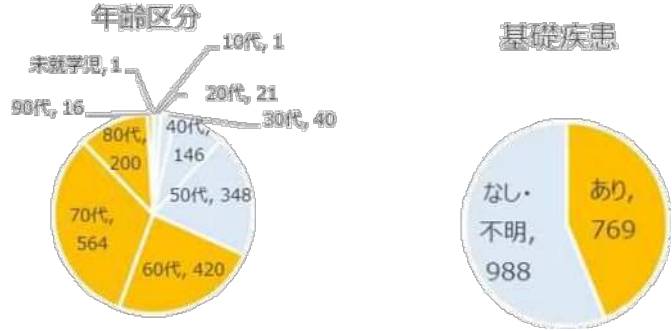
第四波（3/1～6/20）

新規陽性者数		55,318
	(再掲)40代以上(割合)	28,795(52.1%)
	(再掲)60代以上(割合)	12,950(23.4%)
重症者数（※）		1,757
転 帰	死亡	399
	退院・解除	1,358
	入院中（軽症）	0
	入院中（重症）	0

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が23例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.9%(1,694/28,795)
60代以上の陽性者に占める重症者の割合：9.3%(1,200/12,950)
全陽性者数に占める重症者の割合：3.2%(1,757/55,318)



平均年齢：60.9歳
60代以上の割合：68.3%
70代以上の割合：44.4%
80代以上の割合：12.3%

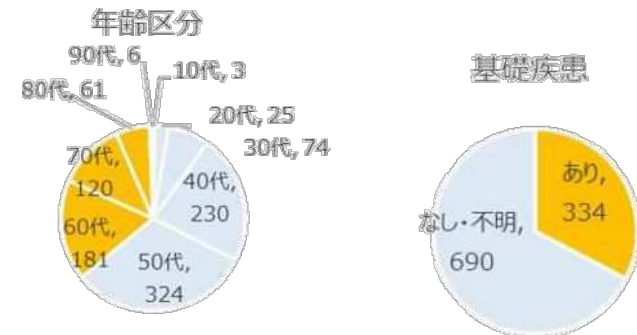
第五波（6/21～12/16）

新規陽性者数		100,891
	(再掲)40代以上(割合)	34,284(34.0%)
	(再掲)60代以上(割合)	7,821(7.8%)
重症者数		1,024
転 帰	死亡	142
	退院・解除	882
	入院中（軽症）	0
	入院中（重症）	0

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が5例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：2.7%(922/34,284)
60代以上の陽性者に占める重症者の割合：4.7%(368/7,821)
全陽性者数に占める重症者の割合：1.0%(1,024/100,891)



平均年齢：51.6歳
60代以上の割合：35.9%
70代以上の割合：18.3%
80代以上の割合：6.5%

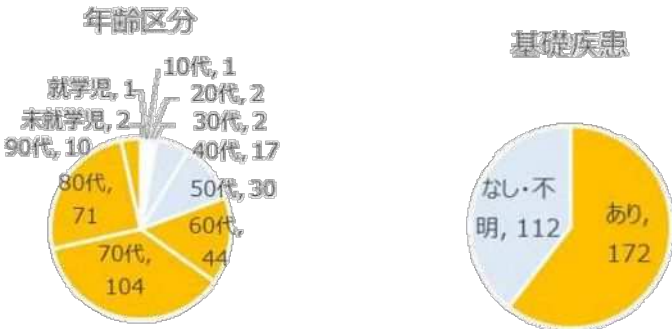
第六波（12/17以降）

新規陽性者数		288,929
	(再掲)40代以上(割合)	108,385(37.5%)
	(再掲)60代以上(割合)	38,688(13.4%)
重症者数		284
転 帰	死亡	16
	退院・解除	24
	入院中（軽症）	51
	入院中（重症）	193

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が4例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：0.3%(276/108,385)
60代以上の陽性者に占める重症者の割合：0.6%(229/38,688)
全陽性者数に占める重症者の割合：0.10%(284/288,929)



平均年齢：66.8歳
60代以上の割合：80.6%
70代以上の割合：65.1%
80代以上の割合：28.5%

※重症率は2月12日判明時点までの重症者数に基づく。今後、重症者数・新規陽性者数の推移により変動

【第四波以降】死亡例のまとめ（令和4年2月12日時点）

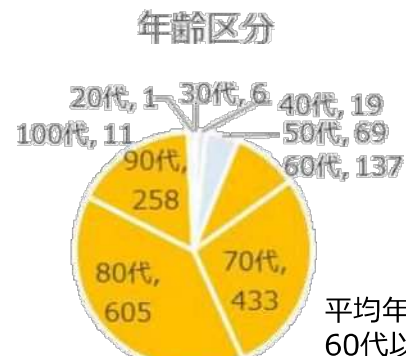
※死亡率：新規陽性者数に占める死亡者の割合

第四波（3/1～6/20）

新規陽性者数	55,318
(再掲)40代以上(割合)	28,795(52.1%)
(再掲)60代以上(割合)	12,950(23.4%)
死亡者数	1,539

■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：5.3%(1,532/28,795)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：11.2%(1,444/12,950)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：2.8%(1,539/55,318)



基礎疾患



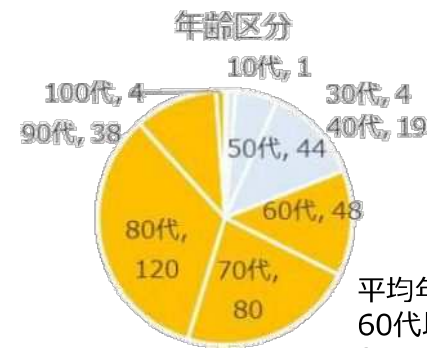
平均年齢：75.2歳
 60代以上の割合：93.8%
 70代以上の割合：84.9%
 80代以上の割合：56.8%

第五波（6/21～12/16）

新規陽性者数	100,891
(再掲)40代以上(割合)	34,284(34.0%)
(再掲)60代以上(割合)	7,821(7.8%)
死亡者数	358

■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：1.0%(353/34,284)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：3.7%(290/7,821)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：0.4%(358/100,891)



基礎疾患



平均年齢：69.8歳
 60代以上の割合：81.0%
 70代以上の割合：67.6%
 80代以上の割合：45.3%

第六波（12/17以降）

新規陽性者数	288,929
(再掲)40代以上(割合)	108,385(37.5%)
(再掲)60代以上(割合)	38,688(13.4%)
死亡者数	276

■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：0.19%(133/70,444)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：0.54%(128/23,882)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：0.07%(133/196,560)



基礎疾患



平均年齢：78.5歳
 60代以上の割合：96.4%
 70代以上の割合：90.9%
 80代以上の割合：69.2%

※死亡率は2月12日判明時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

【第六波】重症及び死亡例のまとめ（令和4年2月12日判明時点）

◆重症例及び死亡例ともに、「ワクチン1回接種のみ・接種なし・不明」の割合が多い。

※ワクチン接種状況については、保健所業務の更なる重点化により、保健所の疫学調査で確認できた範囲での情報及びHER-SYS入力情報に基づく。

【重症例の変異株結果とワクチン接種状況】

	合計	ワクチン接種状況		
		3回接種済	2回接種済	1回接種のみ・接種なし・不明
オミクロン株	17	0	4	13
L452R陰性	54	0	14	40
L452R陽性	8	0	5	3
検査中・検査不可※1	205	0	52	153
総計	284	0	75	209

【死亡例の変異株結果とワクチン接種状況】

※重症例284例のうち、16例は死亡のため重複あり

	合計	ワクチン接種状況		
		3回接種済	2回接種済	1回接種のみ・接種なし・不明
オミクロン株	6	0	4	2
L452R陰性	23	0	11	12
L452R陽性	1	0	1	0
その他※2	2	0	1	1
検査中・検査不可※1	244	2	77	165
総計	276	2	94	180

※1：判定不能含む。 ※2：初発患者がL452R陽性のため検査未実施：2名

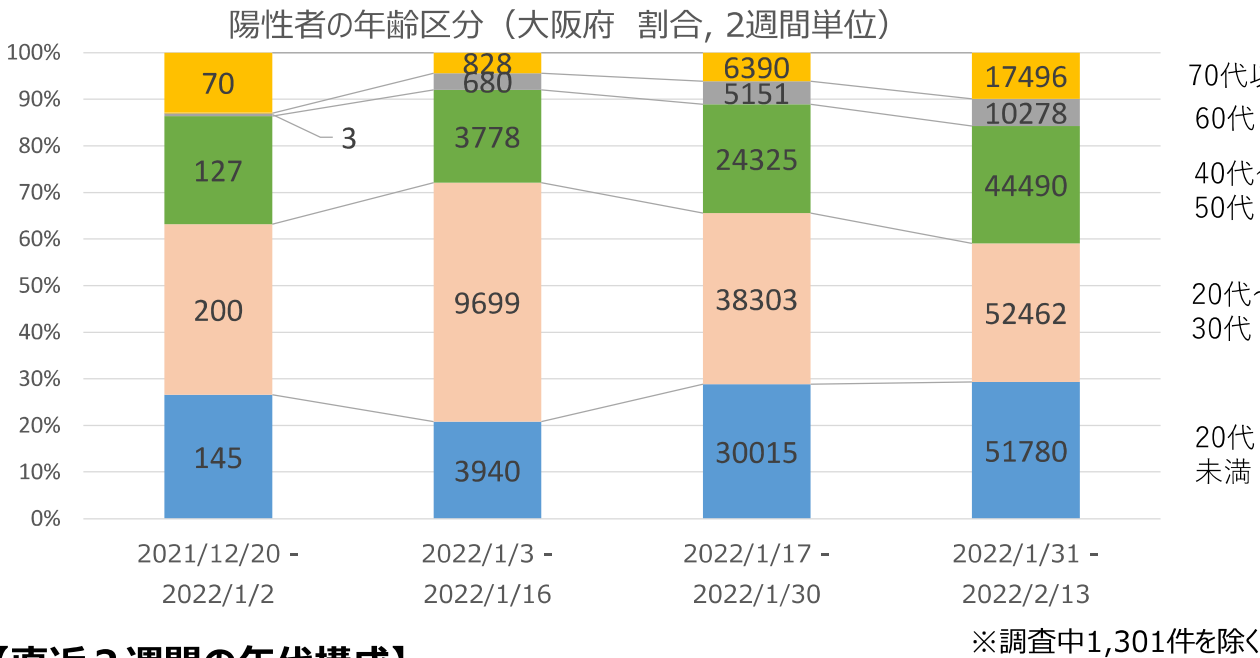
- 1 病床のひっ迫状況と新規陽性者・入院患者等に占める
高齢者の割合 P 2 ～ 8
- 2 高齢者施設等のクラスターの状況 P9～12

1 病床のひっ迫状況、 新規陽性者・入院患者等に占める 高齢者の割合

年代別新規陽性者数の推移

◆ 直近2週間では、70代以上が陽性者数に占める割合が増加し、約1割を占めている。

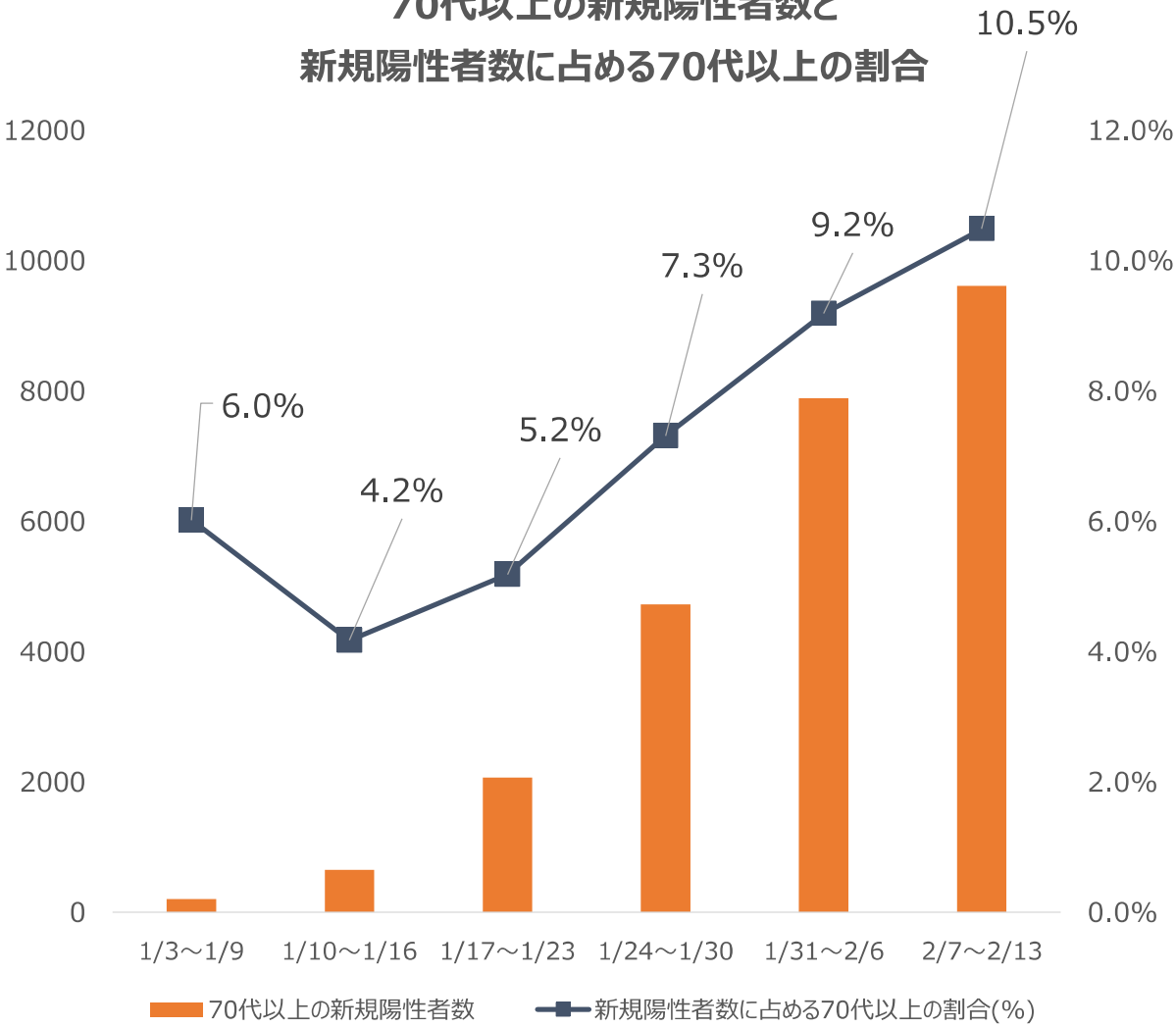
■ 第六波の新規陽性者の年齢区（割合、2週間単位）



【直近2週間の年代構成】

	大阪府
30代以下の割合	59.1%
40・50代の割合	25.2%
60代以上の割合	10.8%
（うち、70代以上の割合）	9.9%

70代以上の新規陽性者数と 新規陽性者数に占める70代以上の割合

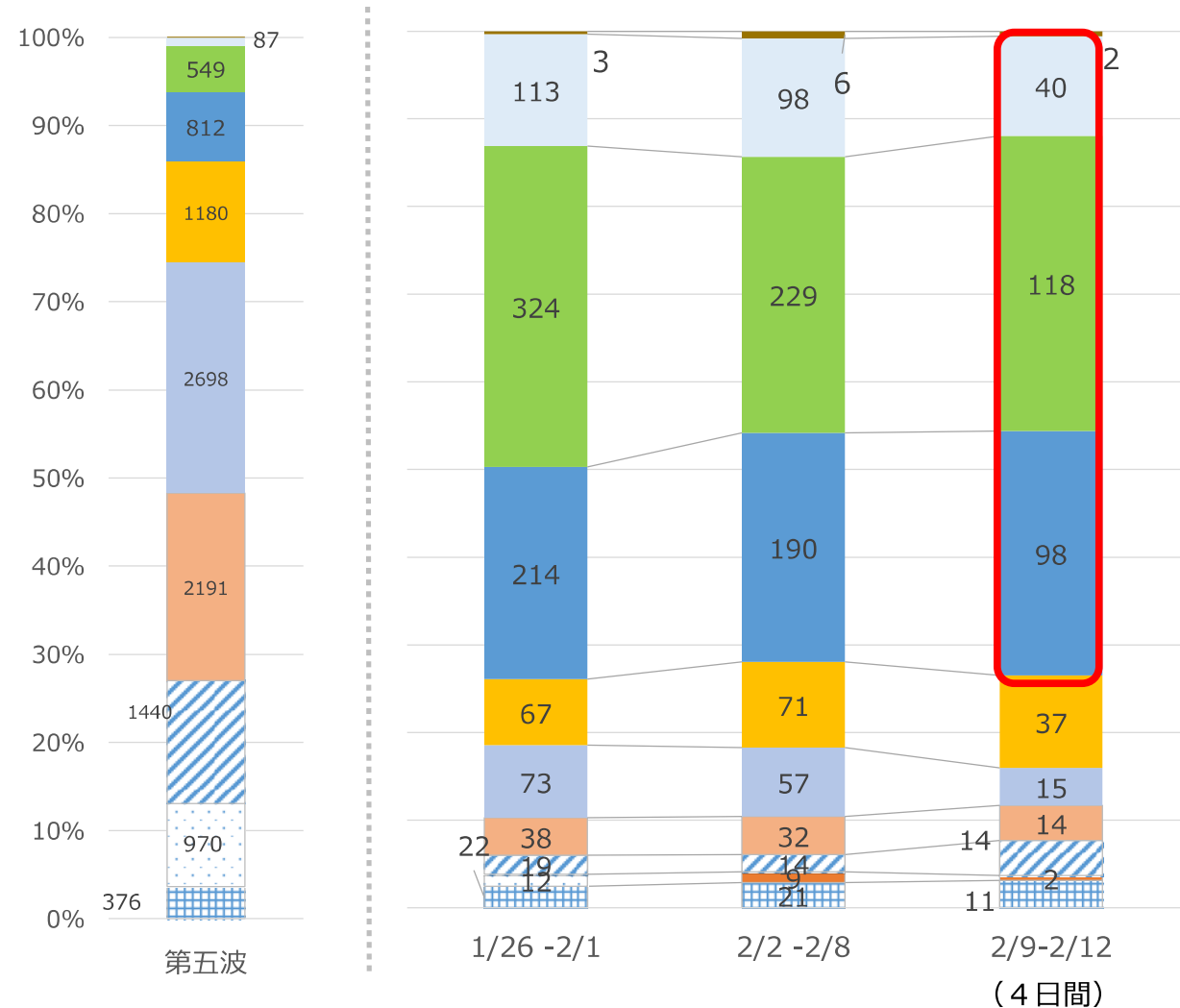


※年代別については、大阪市保健所の計上漏れ約12,700件は、HER-SYSへの入力日の翌日に計上。発生届受理日翌日での正確な数は今後、精査予定。

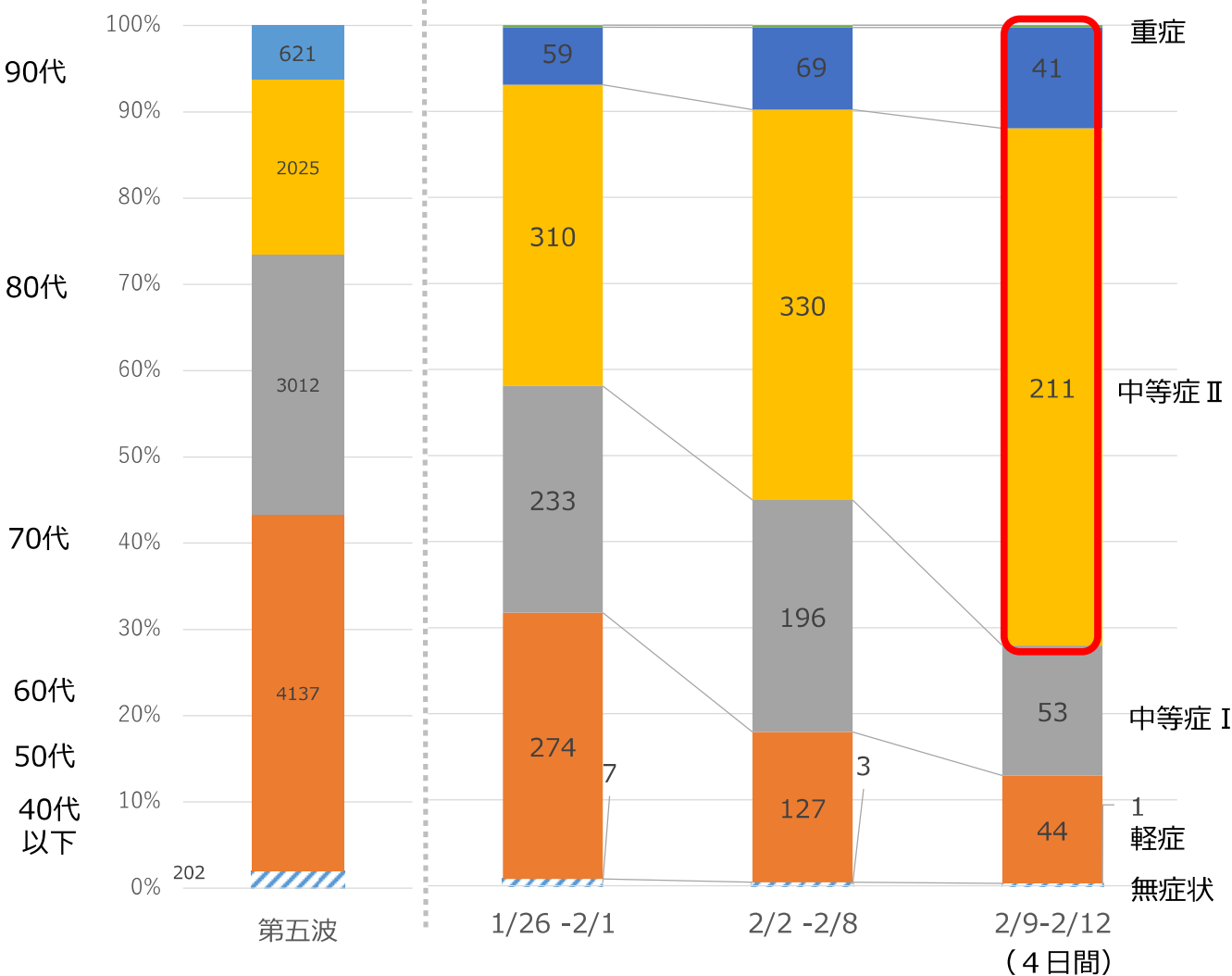
大阪府 入院調整時の入院患者の年代割合や症状

- ◆ 入院調整時の入院患者の直近4日間の年代割合は、70代以上が7割以上を占めている。
- ◆ 症状としては、直近4日間は中等症Ⅱ以上が7割以上を占めている。

入院調整時の入院患者の年代別割合（第五波、1/26～2/12）



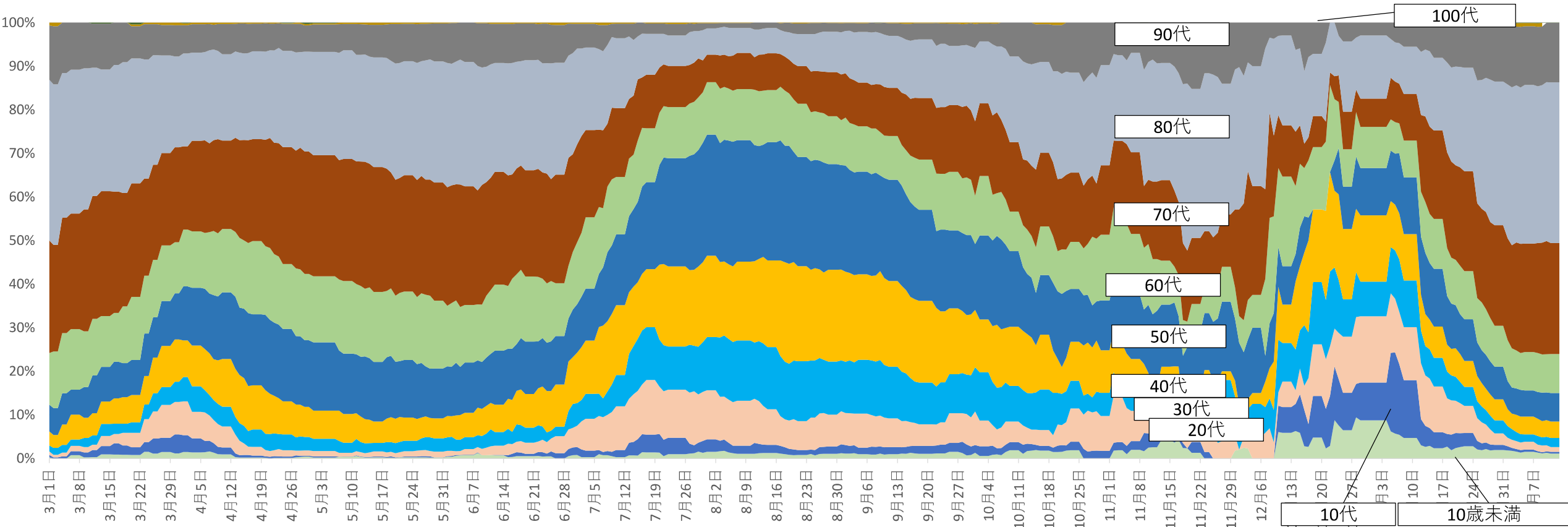
入院調整時の入院患者の症状（第五波、1/26～2/12）



※症状は入院調整時の患者の症状であり、入院後に症状が変化している可能性がある。※「大阪府療養者情報システム（O-CIS）」のデータに基づく。

大阪府 軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合（2月13日時点）

◆ 2月13日時点で、60代以上は85.1%、うち70代以上は約8割。
医療提供体制が極めてひっ迫していた第四波と比較し、第六波は高齢者の入院患者の割合が多い。



	第四波(5/12)	第五波(9/2)	2/13
60代未満	23.3%	66.3%	14.9%
60代以上	76.7%	33.7%	85.1%
（うち、70代以上）	（60.4%）	（23.0%）	（76.2%）

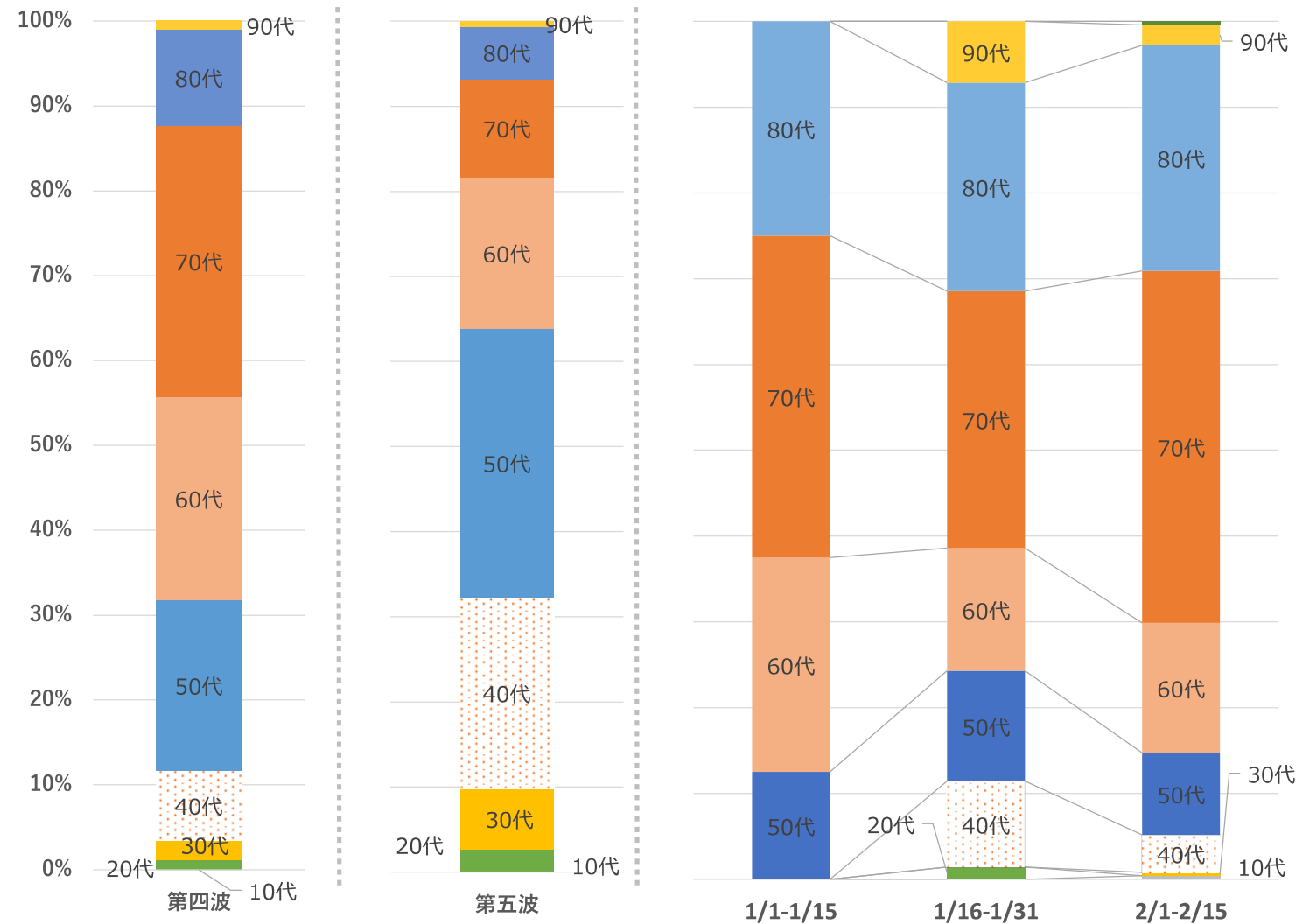
※ 1月5日に患者の全員入院対応、1月7日に入院・宿泊療養対象を見直し

第四波、第五波は、最低入院率となった日

年代別新規重症者の内訳（公表日別）（2月15日時点）

◆ 新規重症者の年代別内訳は、第六波では70代以上が占める割合が約7割と、第四波、第五波と比べて大きく増加。

年代別新規重症者の内訳割合（第四波、第五波、1/1～2/15）



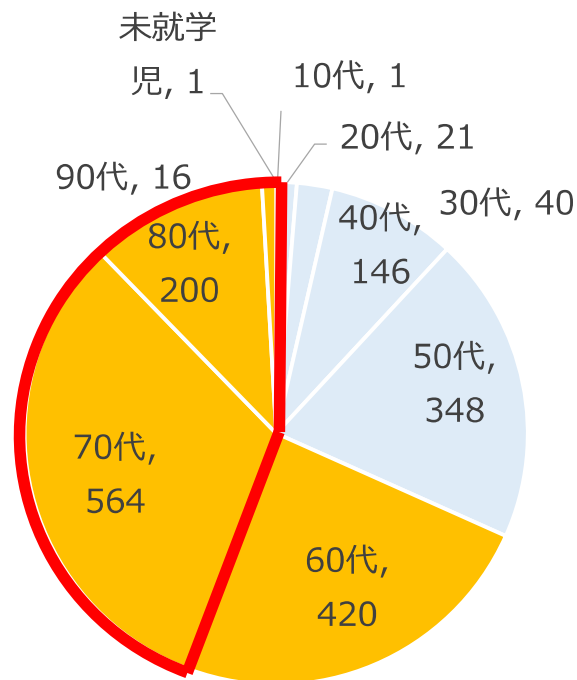
	第四波 (R3.3/1～ 6/20)	第五波 (R3.6/21～ 12/16)	第六波 (R3.12/17～)
新規陽性者数 累計	55,318人	100,891人	322,096人
新規重症者数	1,735人	1,024人	331人
30代以下	61人 (3.5%)	101人 (9.9%)	4人 (1.2%)
40・50代の 割合	491人 (28.3%)	553人 (54.0%)	53人 (16.0%)
60代以上の 割合	1,183人 (68.2%)	370人 (36.1%)	274人 (82.8%)
(うち、70代 以上の割合)	768人 (44.3%)	188人 (18.4%)	224人 (67.7%)

※新規重症者を公表日別に集計しているため、陽性判明日別に集計した各波の重症者数と人数が一致しない場合がある。
※第六波の各年代の割合は、2月15日時点までの新規重症者数に基づく。 今後、新規重症者の推移により変動。

重症者の年代別内訳（第四波～第六波）

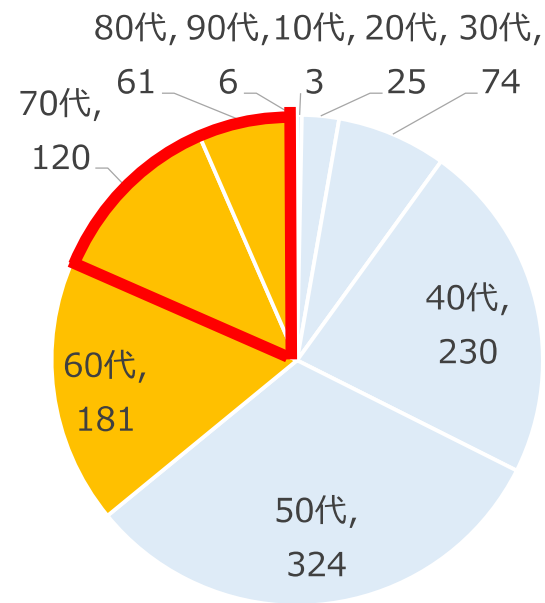
- ◆ 第六波においては、重症者に占める70代以上の割合が6割を超過しており、第四波の4割強や第五波の2割弱に比べ、高い。

第四波



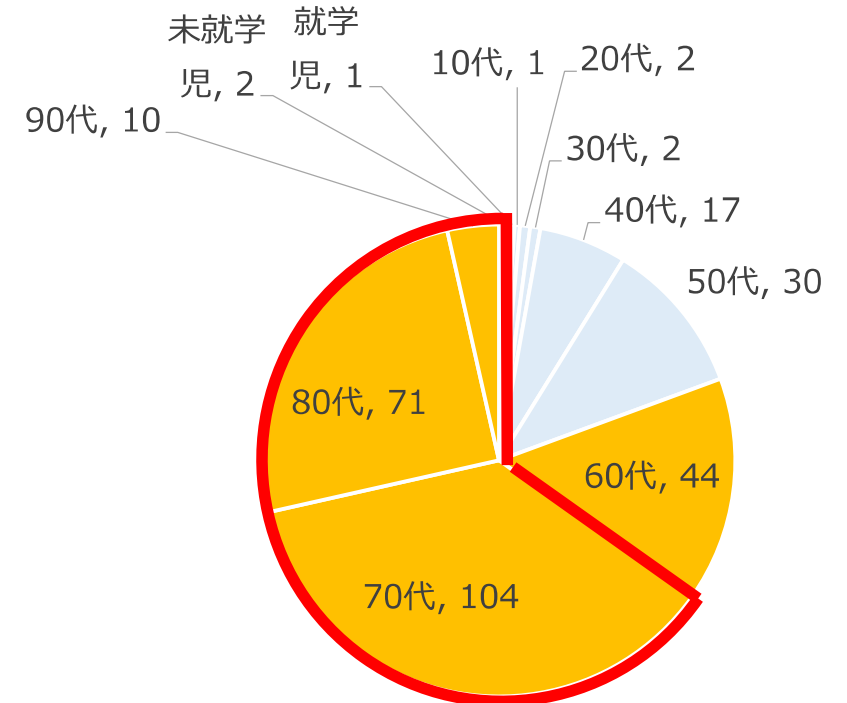
70代以上の割合：44.4%

第五波



70代以上の割合：18.3%

第六波

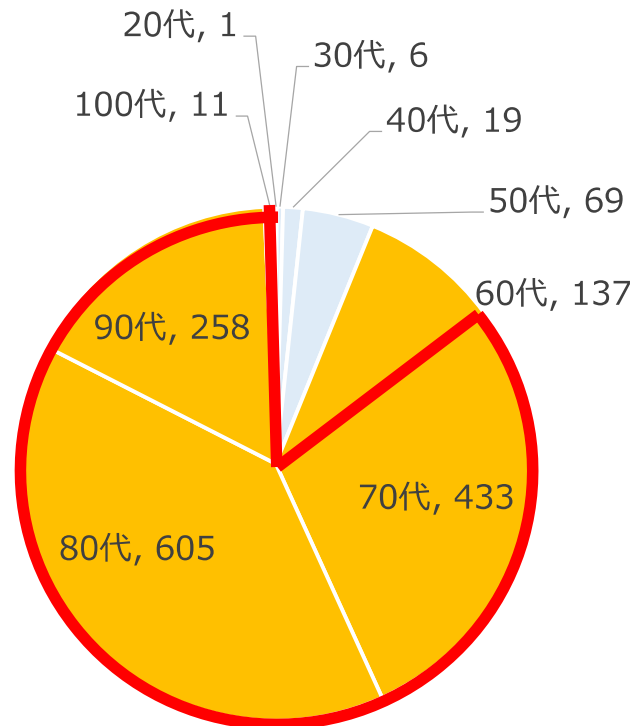


70代以上の割合：65.1%

死亡者の年代別内訳（第四波～第六波）

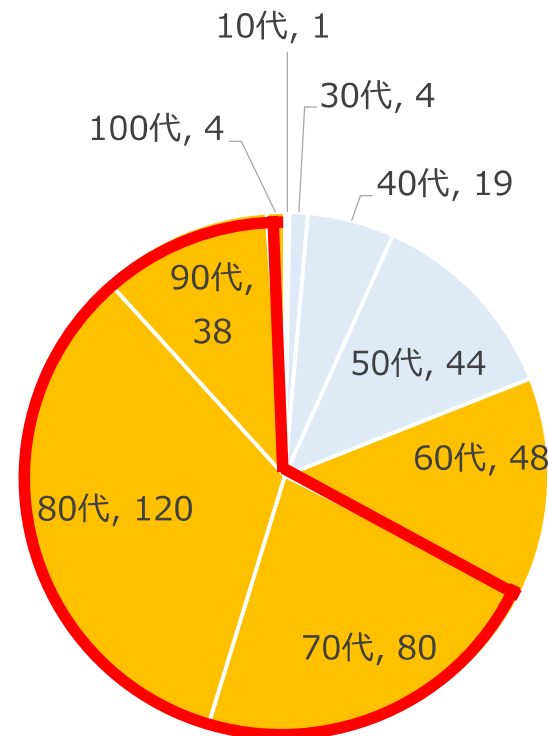
◆ 第六波においては、死亡者に占める70代以上の割合が約9割と、第四波の約8割強、第五波の7割弱に比べ、高い。

第四波



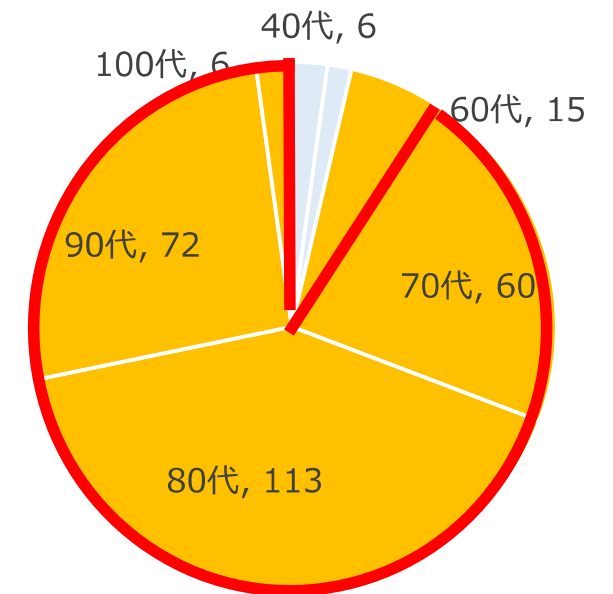
70代以上の割合：84.9%

第五波



70代以上の割合：67.6%

第六波

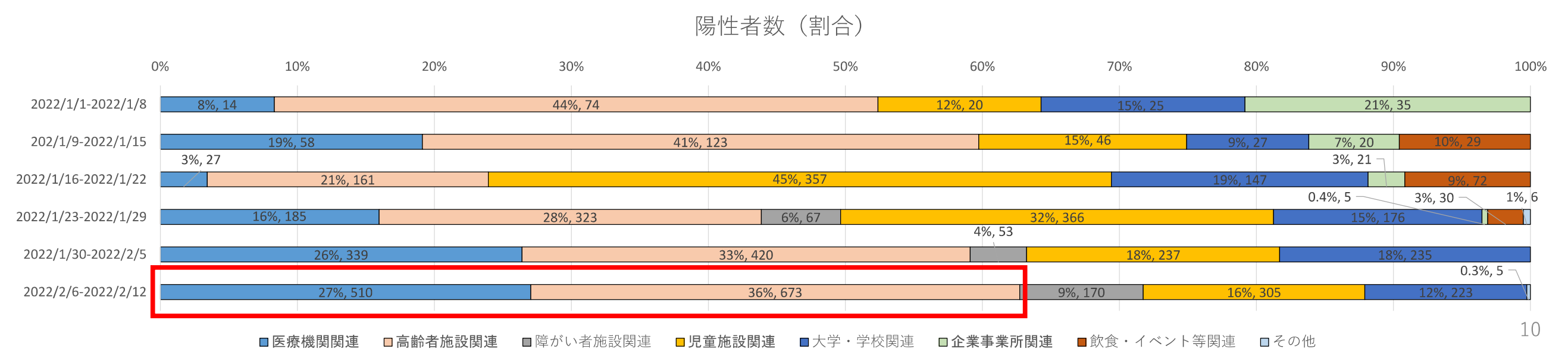
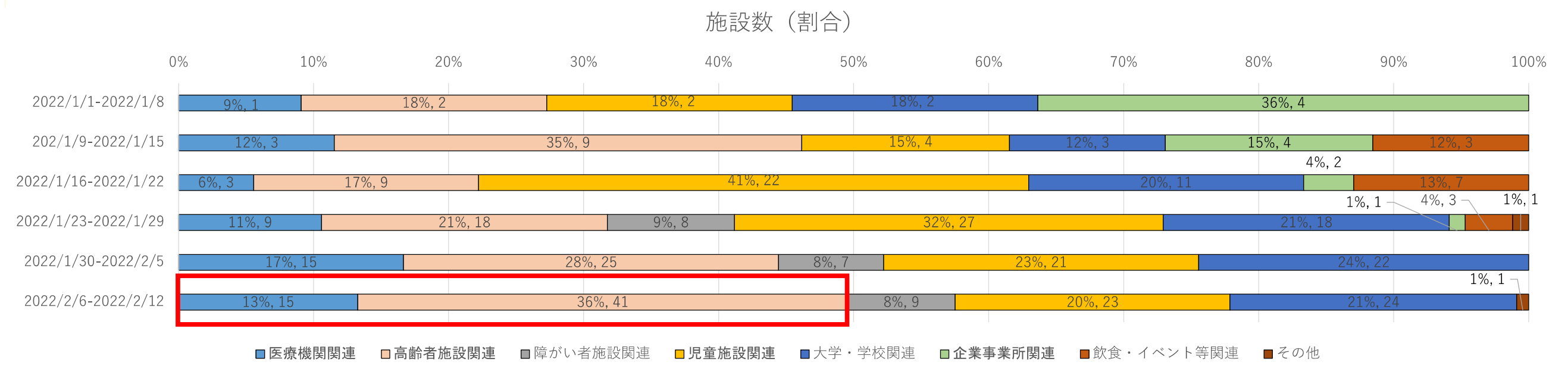


70代以上の割合：90.9%

2 高齢者施設等のクラスターの状況

大阪府 第六波のクラスター状況【割合】

◆ 直近1週間では、医療機関関連と高齢者施設関連が全体に占める割合が施設数で約5割、陽性者数で6割を超過。

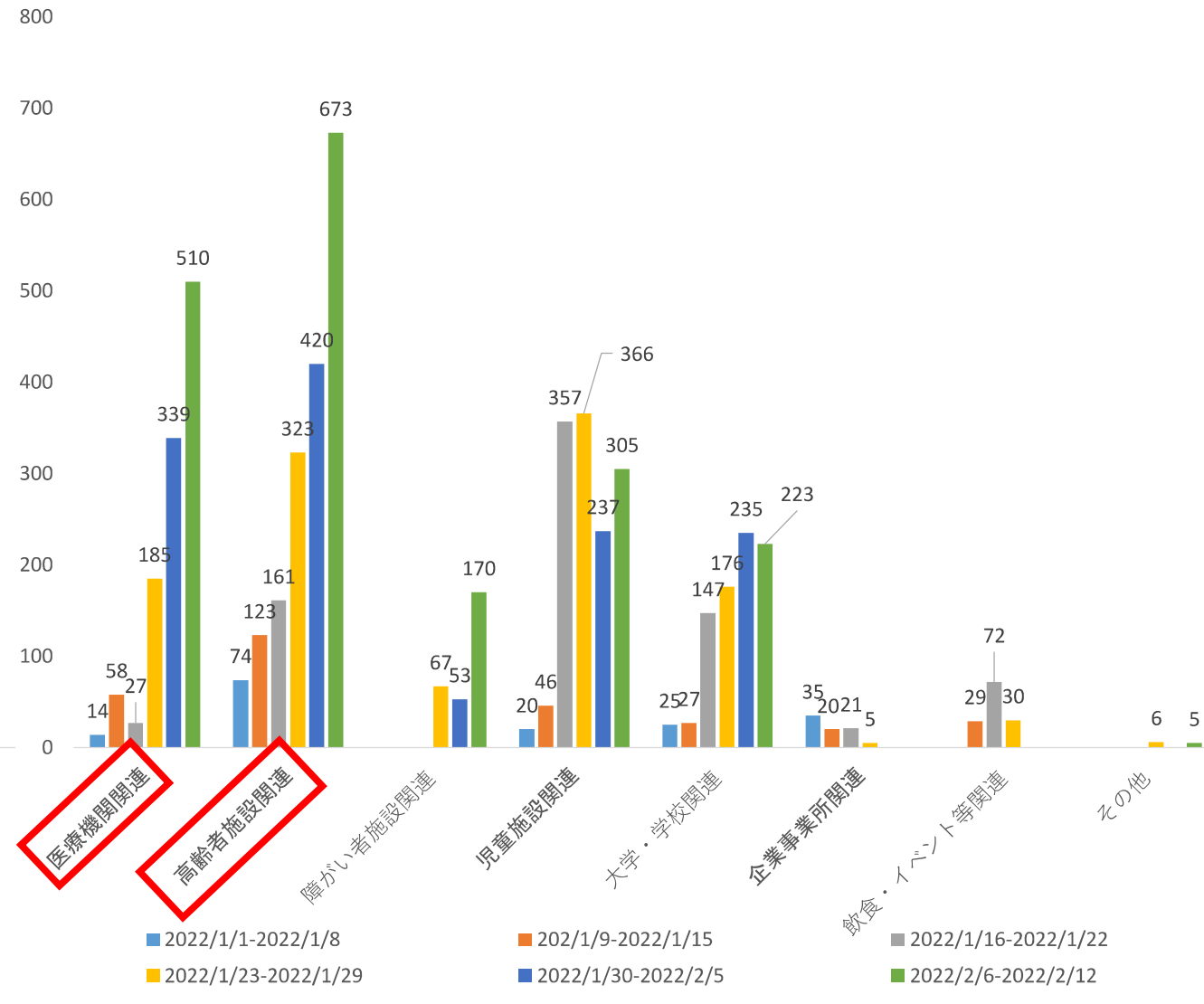
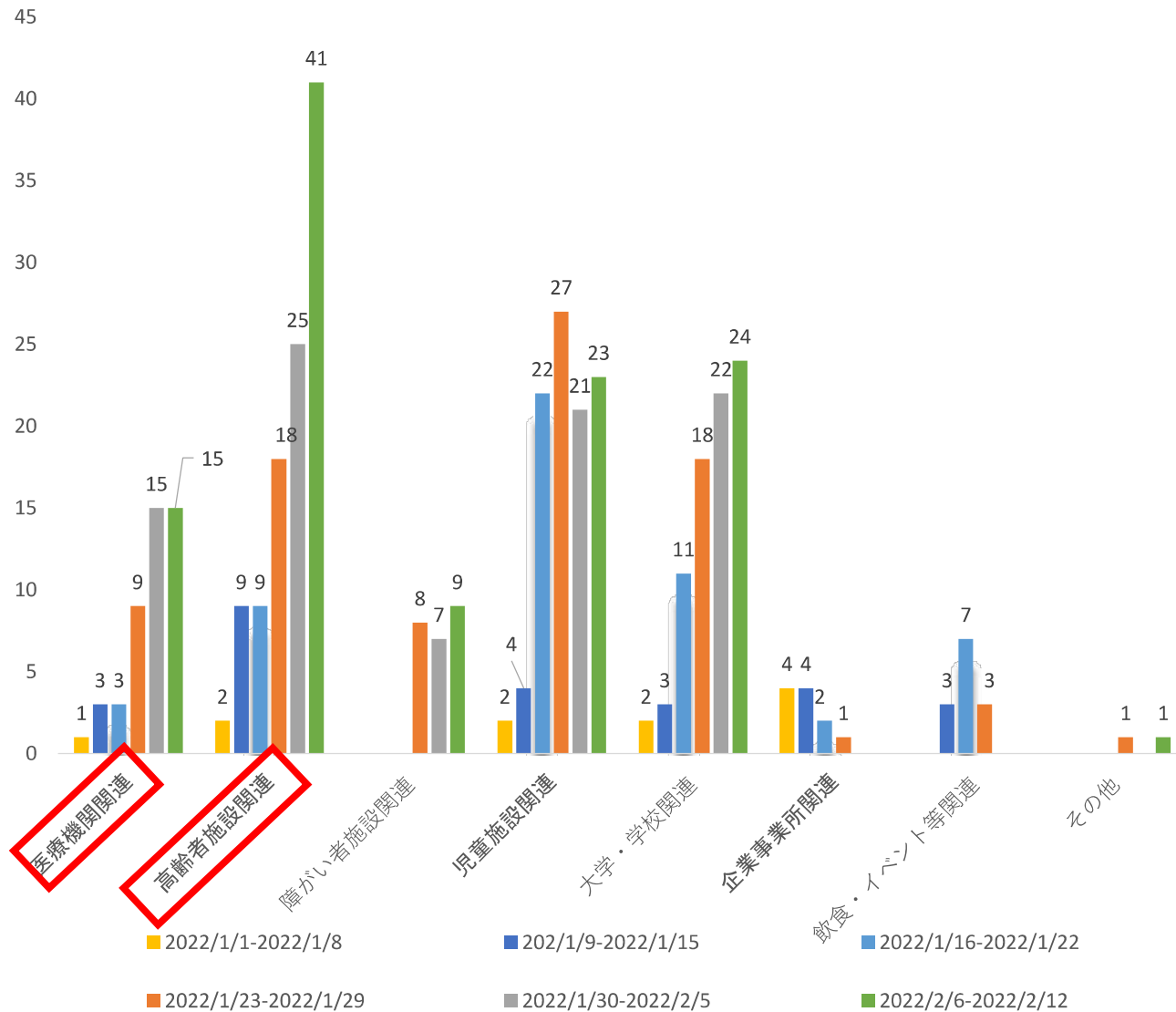


第六波のクラスター状況【実数】

- ◆ 1月では、医療機関関連で19件・369人、高齢者施設関連42件・758人。
2月の12日間では、医療機関関連で27件・764人、高齢者施設関連62件・1,016人。

クラスターの施設数

クラスターの陽性者数



陽性者が複数発生している高齢者施設・障がい者施設（入所）での医療体制について

陽性者が複数発生している 施設数	376施設（うち保健所の健康観察 300施設）	
	うち連携医療機関のある施設	187施設
入所者における陽性者	2,456人	
	うち入院者数	489人
	うち施設内療養者数	1,967人

施設数	医療支援		
376施設	医療介入があった施設		93施設
		連携医療機関での治療実施数（往診も含む）	53施設
		連携医療機関以外の往診あり	19施設
		連携医療機関、連携医療機関以外両方の往診あり	2施設
		確認中	19施設
	医療介入がなかった施設		
		治療の対象者がいない	50施設
		保健所回答なし	233施設

※ 2月15日時点 府内保健所に聞き取った内容であり、記入が不十分のものも含まれている。

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

1 大阪府の感染状況

(1) 感染状況

- **直近 1 週間は前週より減少に転じたが、依然、1 万人を上回る大規模な感染拡大が継続。**
陽性率は依然、4 割を超過し、高止まり。無料検査の陽性率も約14%と極めて高く、市中で感染がまん延した状態が継続。
- **年代別新規陽性者数移動平均は直近で減少に転じているが、直近 2 週間では、60代以上の割合が増加しており、高齢者に感染が拡大。**
- **大阪市外居住地の陽性者数はやや減少が見られたが、直近で横ばい。大阪市内居住地の陽性者数は直近で減少。**
(年代別の分析は次ページ)

2 入院・療養状況等

- コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を含めた病床使用率は40.1%（病床確保計画に基づく確保病床以外に受け入れていただいている病床数4床を分母に含む。以下同じ）。
重症病床運用率は54.6%であるが、クラスターにより患者受入が困難な医療機関等もあり、運用体制としてはひっ迫。
不急の予定入院・手術の延期により一般医療を一部制限しており、医療全体に影響が生じている。特に、救急搬送困難事案件数は高水準で発生しており、救急医療に負荷が生じている。
- **病床確保計画に基づく運用病床以外に受け入れていただいている病床数（2/15時点281床）を含めても、軽症中等症病床の運用はほぼ満床の状態。**
- **宿泊療養施設居室使用率、運用率ともに24.0%。自宅待機者は、約134,000人。**
- **現在、大規模な感染拡大の継続を踏まえ、重症化リスクの高い方などに優先的に入院いただいている（入院率は2%台と過去最低の状態）。**
軽症中等症病床における入院患者の平均入院日数は約8日と、過去の波より短い（今後、国の方針を踏まえ、入院日数がさらに短縮の可能性）が、高齢者の入院患者の増加により重症者数の増加や入院日数が長期化する可能性があり、さらなる医療ひっ迫が懸念。

感染状況と医療提供体制の状況について

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

3 大阪府の医療提供体制がひっ迫している要因

- 大規模な感染拡大が継続している東京都と比較し、大阪府では医療提供体制が極めてひっ迫。
- 要因として以下が考えられる。

①高齢者への感染が拡大

- ・70代以上の新規陽性者数は1週間で9,500人を超過し、陽性者数に占める割合も1割を超過。
- ・高齢者への感染拡大については、クラスターの発生が大きく影響。

大阪府：1月の高齢者施設クラスター…42件・陽性者数758人。医療機関…19件・陽性者数369人。
2月（12日間）の高齢者施設クラスター…62件・陽性者数1,016人。医療機関…27件・陽性者数764人。

②上記①に伴い、高齢者の入院患者が急増。

- ・大阪府では、入院調整時の入院患者の年代割合は、70代以上が7割以上を占め、症状としても、中等症Ⅱ以上が7割以上。軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合も70代以上が約8割と、東京都の約5割強より極めて高い。
- ・重症者に占める70代以上の割合が6割を超過しており、第四波の4割強や第五波の2割弱に比べ、高い。
高齢者は基礎疾患等をお持ちの方も多く、入院が長期化する傾向があり、病床がひっ迫している要因の一つ。
- ・死亡例においても、70代以上の割合が約9割と、第四波の約8割強、第五波の7割弱に比べ、高い。
死亡例について、推定される感染経路は施設・医療機関関連が約3割（第四波と同程度）。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 年代別新規陽性者数や7日間新規陽性者数の推移から、**新規陽性者数は減少に転じ始めている**。
しかし、依然、**1日あたり12,000人程度の陽性者が確認**されており、極めて高水準。陽性率の高さからも、市中で感染がまん延した状態。感染動向について、慎重に見極めが必要。
- **医療提供体制については極めてひっ迫**。不急の予定入院・手術の延期により**一般医療を一部制限しており、医療全体に影響**が生じている。
救急搬送困難事案件数は増加し続けており、**救急医療に対して大きな負荷**がかかっている。
- 大阪府においては、高齢者への感染拡大が顕著にみられ、今後、**高齢者の入院患者の増加により、重症者数の増加や入院日数の長期化、入院患者において介護等も必要になるケースでの医療機関の負担の増大などにより、さらなる医療ひっ迫が懸念**。
特に、**重症患者数は新規陽性者数よりも遅れて増加するため、その影響が長引くことに警戒が必要**。
(沖縄県では、新規感染者数の減少後、入院患者・施設療養者が減少に転じるまで2週間程度のタイムラグ。介護福祉施設の感染者も同様の傾向)
- デンマークのように、オミクロン株の変異株であるBA.2系統への置き換えが進み、更なる感染拡大となる可能性にも注意が必要。

⇒以上のことから、大阪府においては、当面、大規模な感染が当面継続し、仮にピークアウトが近づいていても、重症者数等は遅れて出ることから、**医療提供体制が極めてひっ迫した状態がしばらく継続する見込み**。

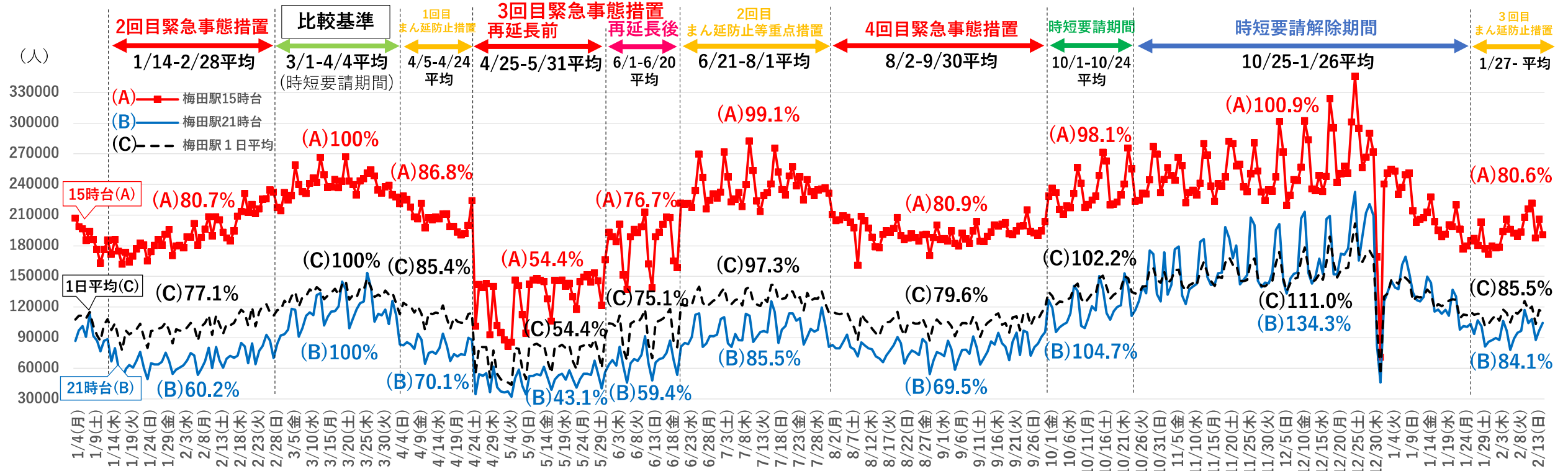
これ以上の医療提供体制のひっ迫を防ぎ、早期に改善させていくため、**感染規模の抑制に向けた人流抑制等の強い措置の検討が必要**。
特に、**70代以上の高齢者や重症化リスクの高い方の不要不急の外出自粛や、高齢者等と日常的に接する家族、高齢者施設・医療機関等の職員の感染リスクを減らす行動の徹底が必要**。さらに、**ワクチン追加接種の推進、高齢者施設等における感染対策の徹底を図る必要**。

⇒また、**高齢者施設等において陽性者が発生した場合の、医療機関による感染制御等に対する助言や、施設への往診可能な医療機関による抗体治療・経口治療薬の投与など、保健所や府・市町村、地域のネットワークによる支援の強化を図っていく**。

⇒さらに、**病床を効率的に活用するため、休床病床の活用や、症状悪化がみられない患者の臨時医療施設、宿泊療養施設、高齢者施設等への早期の転退院の強化などを進めるとともに、他疾患救急患者・院内感染患者など他疾患の治療を行う場合は受入病床以外の病床を活用するなど、医療機関全体での対応を進める**。

【時間帯別】滞在人口の推移（梅田駅15時台・21時台）

資料Ⅰ-5

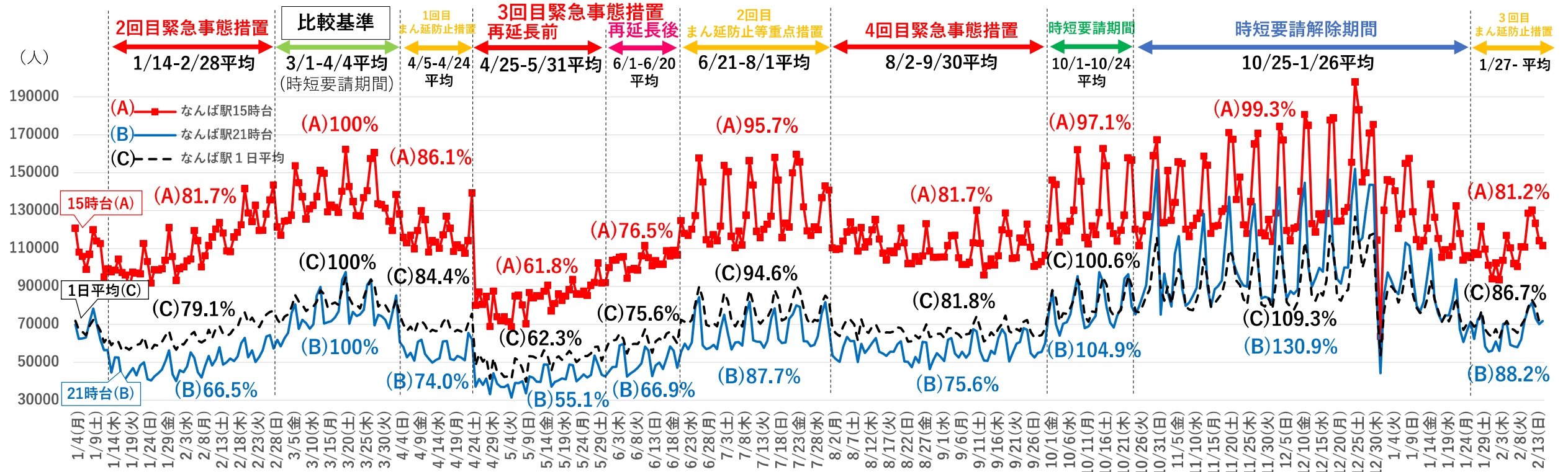


3/1-4/4平均との比較【飲食店等への要請：3/1-3/31市内21時まで時短、4/1-4/4府内全域21時まで時短】

時間帯／ 比較期間		2回目 緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	1回目 まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置		2回目 まん延防止等重点措置 (6/21-8/1平均)	4回目 緊急事態措置 (8/2-9/30平均)	時短要請期間 (10/1-10/24平均)	時短要請解除期間 (10/25-1/26平均)	3回目 まん延防止等重点措置 (1/27-2/15平均)
要 請 内 容	飲食店等	20時まで	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	GS店:21時まで その他の店:20時まで	時短なし	GS店:①21時まで②20時まで その他の店:20時まで
	酒類の提供	可(19時まで)	可(19時まで)	停止 (提供の場合は休業要請)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS認証等2人以内可(19時まで) (7/12以降、4人以内に変更)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS店:可(20時半まで) その他の店:自粛	可	GS店:①可(20時半まで)②自粛 その他の店:自粛
	大規模商業施設	20時まで 時短協力依頼	20時まで 時短協力依頼	休業要請	平日:20時まで時短要請 土日:休業要請	20時まで時短要請 (7/12以降、21時まで時短要請)	20時まで時短要請 (8/20以降、地下食品売場入場整理等)	21時までの働きかけ	適切な入場整理等の働きかけ	入場者の整理等 (人数管理・人数制限・誘導等)
	15時台	80.7%	86.8%	54.4%	76.7%	99.1%	80.9%	98.1%	100.9%	80.6%
21時台		60.2%	70.1%	43.1%	59.4%	85.5%	69.5%	104.7%	134.3%	84.1%
1日平均		77.1%	85.4%	54.4%	75.1%	97.3%	79.6%	102.2%	111.0%	85.5%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント（例）エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、30分滞在していた場合は0.5人として計算【出典】株式会社Agoop

【時間帯別】滞在人口の推移（なんば駅15時台・21時台）



3/1-4/4平均との比較【飲食店等への要請：3/1-3/31市内21時まで時短、4/1-4/4府内全域21時まで時短】

時間帯／比較期間		2回目 緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	1回目 まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置		2回目 まん延防止等重点措置 (6/21-8/1平均)	4回目 緊急事態措置 (8/2-9/30平均)	時短要請期間 (10/1-10/24平均)	時短要請解除期間 (10/25-1/26平均)	3回目 まん延防止等重点措置 (1/27-2/15平均)
要 請 内 容	飲食店等	20時まで	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	GS店:21時まで その他の店:20時まで	時短なし	GS店:①21時まで②20時まで その他の店:20時まで
	酒類の提供	可(19時まで)	可(19時まで)	停止 (提供の場合は休業要請)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS認証等2人以内可(19時まで) (7/12以降、4人以内に変更)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS店:可(20時半まで) その他の店:自粛	可	GS店:①可(20時半まで)②自粛 その他の店:自粛
	大規模商業施設	20時まで 時短協力依頼	20時まで 時短協力依頼	休業要請	平日:20時まで時短要請 土日:休業要請	20時まで時短要請 (7/12以降、21時まで時短要請)	20時まで時短要請 (8/20以降、地下食品売場入場整理等)	21時までの働きかけ	適切な入場整理等の働きかけ	入場者の整理等 (人数管理・人数制限・誘導等)
	15時台	81.7%	86.1%	61.8%	76.5%	95.7%	81.7%	97.1%	99.3%	81.2%
21時台		66.5%	74.0%	55.1%	66.9%	87.7%	75.6%	104.9%	130.9%	88.2%
1日平均		79.1%	84.4%	62.3%	75.6%	94.6%	81.8%	100.6%	109.3%	86.7%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント(例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、30分滞在していた場合は0.5人として計算【出典】株式会社Agoop

飲食店等における営業時間短縮要請の協力状況

資料1-6

※2月14日現在

		4/5～4/24 まん延防止等 重点措置 (大阪市内)	4/25～6/20 緊急事態措置 (大阪府内)	6/21～8/1 まん延防止等 重点措置 (措置区域33市)	8/2～9/30 緊急事態措置 (大阪府内)	10/1～10/24 緊急事態措置解除後 (大阪府内)	1/27～2/20 まん延防止等重点措置 (大阪府内)
要請内容	営業時間短縮	20時まで	20時まで	20時まで	20時まで	GS認証店 : 21時まで その他の店舗: 20時まで	GS認証店: (①又は②を選択) ①21時まで ②20時まで その他の店舗: 20時まで
	酒類の提供	19時まで	自粛 (提供の場合は 休業要請)	19時まで (GS認証、 2人以内等)	自粛 (提供の場合は 休業要請)	GS認証店 : 20時30分まで その他の店舗: 自粛	GS認証店: (①又は②を選択) ①20時30分まで ②自粛 その他の店舗: 自粛
営業時間短縮の協力率		99.2%	99.1%	98.9%	98.7%	98.1%	98.2%

【現在の状況】

- ◆ 第六波においては、1日当たりの新規陽性者数が1万5千人を超えるなど、これまでにない規模の感染拡大であった。いまだ高止まりの状況であるが、直近では減少の兆しが見られる（2月16日時点の7日間新規陽性者数の前週増加比：約0.89倍）
- ◆ 繁華街の滞在人口など、人流に関しては減少しており、まん延防止等重点措置の効果は見られる
- ◆ 一方、依然として感染規模は大きく、入院患者の7割以上が70代以上の高齢者となっており重症者のさらなる増加が予想されるなど、予断を許さない状況。今後も、徹底した感染防止対策を継続する必要



国に対し、まん延防止等重点措置を実施すべき期間（現在：2月20日まで）の延長を要請（今後、感染状況や医療提供体制のひっ迫状況を踏まえ、緊急事態宣言の国への要請について検討）

大阪府新型コロナウイルス対策本部会議専門家座長 朝野 和典

【感染状況の分析】

- ・ 連休の影響もあり減少幅が大きくなっているが、それ以前のトレンドと合わせ全国的にピークアウトに入っていると判断される。
- ・ 兵庫県、京都府共にピークアウト傾向。
- ・ 大阪府もトレンドとしてピークアウトに入ったが、HER-SYS の入力遅れや、検査を受けていない陽性者（無料検査場での陽性率 14%！）の存在のため、正確な判断は困難。
- ・ 検査を受けていない感染者も考慮すれば、感染者数は季節性インフルエンザ並みの感染者数（薬局サーベイランスによる推定感染者数ではピーク時に 2～3 万人/日程度）となっている。
- ・ 検査陽性者に占める高齢者の割合が増加傾向となり、100 歳以上の感染者が毎日報告されていることから施設内感染が危機的状態となっている。
- ・ 重症病床は 60 歳以上の患者数と相関することから、ピークアウトに入れば、しばらく増加しつつも、減少に転じると予想する。
- ・ オミクロン株 BA2 は、大阪では未だ分離頻度が低く、増加の傾向になっていない。

【対応について】

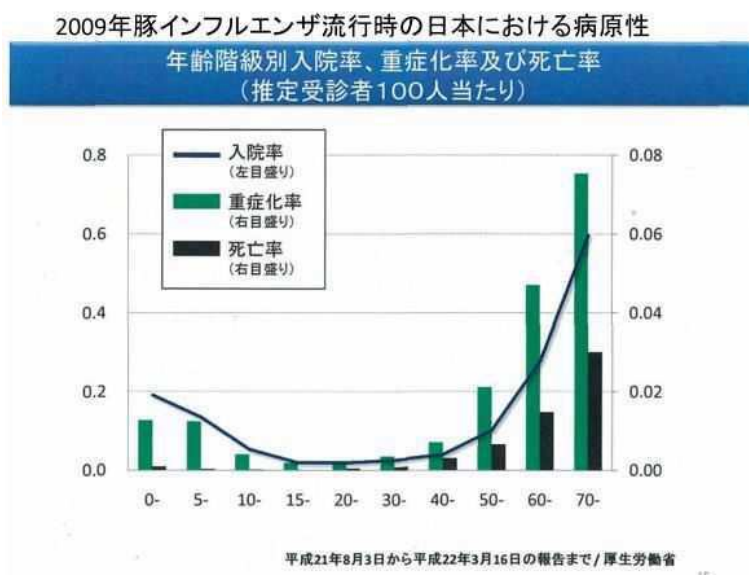
- ・ 状況は二局化しているため分けて考える必要がある。オミクロン株は若年層にとっては、軽症で推移する季節性インフルエンザ並みの感染症であり、高齢者や基礎疾患のある人にとっては、季節性インフルエンザよりも重症化しやすい感染症である。小児にとっては、インフルエンザ脳症の発症がないため、インフルエンザの方が重症化率が高いと言える。（インフルエンザに関して全数で調査してあるのは 2009 年の豚インフルエンザのデータがあり、それとの比較。添付図参照）
- ・ 大阪府の資料からも示されているように、高齢者をいかに重症化、死亡から守るかが最優先の課題である。まん延防止等重点措置の延長や緊急事態宣言を新たに発出することで社会の人流の抑制は、間接的に有効かもしれないが、優先すべきはより焦点を絞った直接的に高齢者を守るための資料 1－4 の対策の実施と考える。
 - ① 資料 1-2 の 18 ページから、ブースター接種はオミクロン株にも有効であり、65 歳以上あるいは死亡者が多い 70 歳以上に優先的に迅速にブースター接種を遂行する。施設職員、および入所者は、施設往診医療機関などに接種を委託して、短時間（ブースター接種後の抗体価上昇は速やかなため、できれば今月中）に 3 回目接種を完了する。
 - ② 阪大では、高齢者施設や感染管理の専門家のいない病院でクラスターが発生した場合には、吹田保健所管内の地域連携の一環として感染管理の専門家チーム（近隣の大学病院、基幹病院のインフェクションコントロールチーム（ICT）など）を派遣

し、ゾーニング、隔離の支援・指導を行う仕組みを作っていた。保健所がひっ迫している状況では、地域の感染管理の連携を利用して感染対策を進めることが重要*。

*感染防止対策加算1を取得している病院には地域連携加算が入っており、そこを中心として保健所と連携して、感染制御の支援を行うことが可能。

- ③ 診療型宿泊療養の活用をもっと促進する（利用率70%を目標）。医療法上の医療施設という定義ではなく、大阪府として病床相当と定義、たとえば“みなし病床”などとして、診療型療養を重症度に応じて柔軟な運用で病床のひっ迫を軽減する。
- ④ 今後も、感染力のより強い変異株が来れば、第6波以上の流行が起こるため、現在の対策としての対策と同時に、次に備えた準備が必要
 - ・ 軽症・中等症病床では、運用病床以外の病床が利用されているように、クラスターが発生した医療機関は、実質的に専用病棟化して対応せざるを得なくなっている。米国の報道では COVID-19 の入院患者の半数はコロナ感染以外で入院した患者である。もはや規模の大小にかかわらずすべての病院が COVID-19 診療を可能とする体制を整備し、必要時には COVID-19 患者専用の病棟（10%程度の病床）を設置できるよう準備するという方針を病院協会と協議する。
 - ・ 医師会と協議し、保健所のひっ迫を解消し、有症状者へのアプローチを効率化するために、医療機関での HER-SYS 入力を徹底する。（≒2月9日厚生労働省通知）
 - ・ 医師会と協議し、ファーストタッチ、治療、健康観察を地域医療で担い、保健所は患者搬送決定や自宅療養者へのパルスオキシメーターの配布、濃厚接触者の追跡などの公衆衛生業務に集中できる環境の整備を行う。

参考：



オミクロン株の感染まん延期における高齢者施設への支援等について

資料 3 - 1

- ◆ 感染まん延期に施設で陽性者が発生した場合は早期の重症化予防治療、軽症の場合は可能な限り施設内での療養を基本。
- ◆ 感染の早期収束や、施設内療養への支援のため、地域の医療機関との連携による感染対策の指導や往診等の治療体制整備、保健所業務の重点化やワクチン接種の迅速化などを集中的に実施。

1. 保健所業務の高齢者施設対応への重点化

- ファーストタッチを行う対象の重点化（65歳以上）とあわせ、各保健所の高齢者施設対応を強化し、施設の医療体制・往診を支援。

2. 施設運営者（管理者）に対する感染対策や治療実施に関する要請

- 感染対策の徹底（面会の原則自粛やオンラインによる実施）
- 施設で陽性者や疑似症患者が発生した場合の、速やかな治療実施（配置医師や連携医療機関、地域の往診医療機関等との連携）

3. 医療機関に対する高齢者施設支援・治療実施の要請

- 地域の中核的な医療機関（感染防止対策加算Ⅰ病院）等による感染制御の支援
- 往診医療機関等による速やかな治療（抗体治療や経口薬の投与等）の実施（地域単位での支援体制の確保）（協力金の支給）

4. 施設内療養に対する支援の充実

- 保健所・医療機関等による上記支援とともに、府・市町村等によるクラスター対策支援や物資・業務継続等への支援
- 施設内療養を行う施設への補助制度の拡充、抗原検査キットや治療薬の優先配分等（国への要望）

5. ワクチン接種の迅速化

- ワクチン追加接種未実施の高齢者施設に対する早期のワクチン接種の推進（市町村への2月末までの接種完了要請、施設管理者、医療機関への協力要請）

オミクロン株の感染まん延期における高齢者施設等での対応の考え方

福祉部・健康医療部より
2/10 施設あて通知

感染・療養の状況

- 入院患者の年代割合（入院調整時）は、直近6日間で60代以上が8割強、80代以上が約5割。
- 軽症中等症病床が運用率98.3%（2月7日時点）とひっ迫。入院患者の調整時症状は直近6日間で中等症Ⅰ以上が約7割、中等症Ⅱ以上が4割強と増加傾向。
- 一方でオミクロン株は比較的重症化しにくく、発症早期に施設内で適切な治療を行えば重症化を防ぐことが可能。

施設クラスター等の状況

- 高齢者施設・障がい者施設におけるクラスターが多発。公表クラスターでは1月で52施設、約780人の陽性者が発生（通所施設や職員を含む）。
- 別途、クラスター以外も含めた入所施設の状況を保健所に調査したところ、陽性入所者は約1600人、うち施設内療養は約8割の約1250人。（2月7日時点の保健所からの報告に基づく1月からの発生クラスターのうち収束施設を除いた累計。）
- オミクロン株は感染力が強いことから多数の施設内感染が発生。

- 施設で陽性者が発生した場合、早期の重症化予防治療と、軽症の場合は可能な限り施設内での療養を基本とする
- 上記を円滑に進めるため、地域の医療機関等とも連携した支援体制を強化

高齢者施設等における入院・療養の考え方（第六波におけるオミクロン株感染まん延期の対応）

- ① 施設内であっても「府における入院・療養の考え方」に基づき対応。
中等症以上や、症状が続き中等症への移行が懸念される方は原則入院療養の対象とし、症状や施設の状況を勘案して医療需要の高い方から優先的に入院調整。（対象に該当しても、病床のひっ迫状況などによりやむを得ず施設内療養を行う場合がある。）ADLが自立している方は宿泊療養の対象。
※施設の状況：施設形態、常勤医師等の配置状況、法人内での支援の有無など
- ② 入院治療はコロナ治療を目的とする方を対象とする。コロナ患者の治療機会を最大限確保するため、コロナ治療を終え症状が安定し入院での医療が不要となった場合は療養期間中であっても退院し、診療型宿泊療養施設の活用や、高齢者施設等での療養を検討。
- ③ 施設内療養を行う場合は、保健所や府・市町村による支援とともに、地域のネットワークによる支援を実施。
(ICT（感染対策チーム）等による感染対策の指導や、往診医療機関等による抗体療法・経口治療薬投与など)



【参考】府における入院・療養の考え方（第六波におけるオミクロン株感染拡大時の対応）（令和4年1月25日対策協議会・対策本部会議）

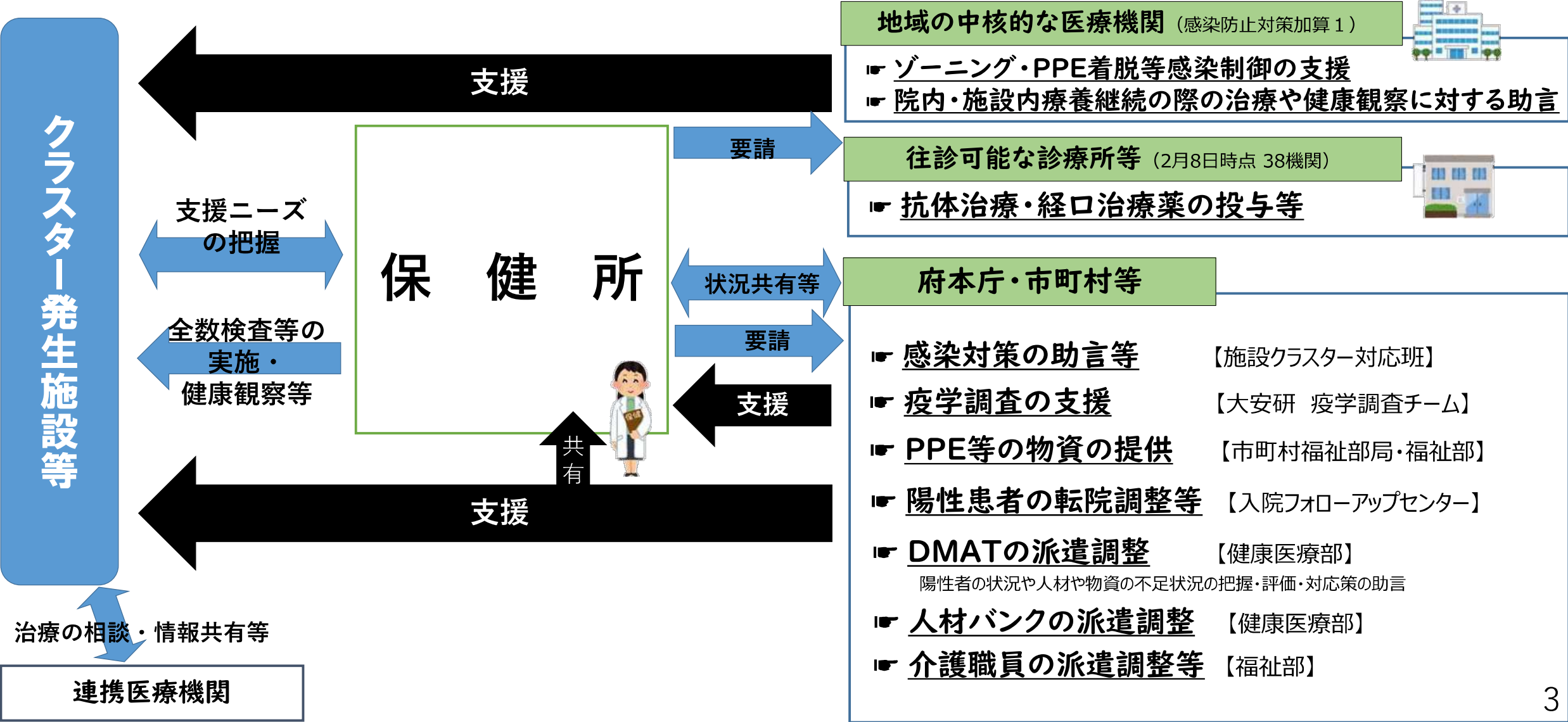
●入院の対象（目安）

- ・中等症Ⅰ（SpO2が96未満又は息切れや肺炎所見あり）・中等症Ⅱ（SpO2が93以下）以上
 - ・65歳以上及び重症化リスク（BMI30以上や基礎疾患等）があり、発熱が続くなど中等症への移行が懸念される患者（外来等で初期治療や経過観察が可能な患者を除く）
 - ・中等度以上の基礎疾患・合併症により入院を必要とする者や、保健所や入院FCが必要と判断した者 ※上記以外にも免疫低下や妊婦など、感染症法政省令に基づく対象者あり
- ※中和抗体治療などコロナ治療を終え症状が安定した患者は宿泊療養に切替え

大阪府における施設クラスターへの支援

福祉部・健康医療部より
2/10 施設あて通知

◆高齢者施設等における感染発生時の早期収束や、施設内療養への支援のため、保健所や府・市町村による支援とともに、地域の医療機関との連携により、感染対策の指導や往診等の治療体制を整備。



- ◆病床運用がひっ迫し、入院調整が極めて困難な状況となっている。
とりわけ、病院内で発生した新規陽性者を確保病床で受け入れていることが、大きな要因となっているため、特措法第24条第9項により、患者受入等について受入医療機関に緊急要請（2月14日付）。

対象：すべての受入医療機関

- ・コロナ以外の入院患者がコロナ陽性となった場合、引き続き、自院でコロナ対策を講じ治療を継続
※確保病床での受入を継続できるよう、原則として当該患者は別途受入体制・病床を確保し対応

対象：重症患者受入医療機関

- ・重症フェーズ4の確実な運用
- ・重症拠点病院及び中等症・重症一体型病院①（うちECMO対応可）については、他の救急医療機関と役割分担の上、重症フェーズ5に準じた病床を運用

対象：中等症・重症一体型病院②

※これまでの要請に加え、今回下線部を新規要請

- ・新規重症患者の受入
- ・他院からの重症患者の受入及び中等症Ⅱ患者(挿管を希望しない患者含む)の受入
- ・コロナ重症患者に加え、疑似症等救急搬送困難患者の受入（陽性が判明した場合、重症病床で受入）

医療提供体制の確保や高齢者施設支援などに関する医療機関・施設等への要請

資料 3 - 3

◆ 取組を確実に推進するため、医療機関・高齢者施設・市町村などに対し、特措法第24条第9項に基づき、以下の要請を実施（予定含む）

項目	要請内容	要請対象	要請日
病床確保に関する要請	○重症フェーズ4の確実な運用 ○重症拠点病院及び中等症・重症一体型病院①（うちECMO対応可）については、他の救急医療機関と役割分担の上、重症フェーズ5に準じた病床を運用	重症患者受入医療機関（重症拠点病院、一体型病院①、一体型病院②）	令和4年2月7日、 令和4年2月14日
	○軽症中等症フェーズ5への速やかな移行 ○休止病床等を活用したフェーズ5の病床数以上の受入（確保病床の2割以上目途）	軽症中等症患者受入医療機関（一体型病院①、一体型病院②、軽症中等症病院）	令和4年1月21日、 令和4年2月3日
患者受入に関する要請	○コロナ以外の入院患者がコロナ陽性となった場合、引き続き、自院でコロナ対策を講じ治療を継続 ○外来受診患者等から入院調整を行う場合は、入院基準を遵守 ○フォローアップセンターから入院患者（運用病床数1割以上/日）の確実な受入 ○土日・祝日及び夜間の受入体制の確実な確保	すべての受入医療機関（重症拠点病院、一体型病院①、一体型病院②、軽症中等症病院）	令和4年2月3日、 令和4年2月14日
	○新規重症患者の受入 ○他院からの重症患者の受入及び中等症Ⅱ患者（挿管を希望しない患者含む）の受入 ○コロナ重症患者に加え、疑似症等救急搬送困難患者の受入（陽性が判明した場合、重症病床で受入）	一体型病院②	令和4年2月3日、 令和4年2月7日、 令和4年2月14日
コロナ患者の転退院促進にかかる要請	○中和抗体療法などの治療を終え、症状が安定したコロナ患者は、宿泊療養等への切替を促進 ○退院隔離解除基準を満たした患者の転退院の徹底	すべての受入医療機関（重症拠点病院、一体型病院①、一体型病院②、軽症中等症病院）	令和4年2月3日
	○退院隔離解除基準を満たした患者の積極的な受入	退院基準到達患者受入れ可能医療機関	令和4年2月9日
透析患者へのコロナ治療にかかる要請	○軽症中等症（人工透析病床）フェーズ5への速やかな移行・円滑な受入 ○運用病床以上の入院調整があった場合の患者の受入	透析患者受入医療機関（一体型病院①、一体型病院②、軽症中等症病院）	令和4年1月24日
	○かかりつけ患者が陽性となった場合も、軽症であれば、原則、自院での治療継続	人工透析取扱医療機関（人工透析コロナ受入医療機関除く）	令和4年1月24日
妊産婦患者へのコロナ治療にかかる要請	○軽症中等症（妊産婦病床）フェーズ5への速やかな移行・円滑な受入 ○妊産婦病床「出産対応不可」においても、出産の可能性が高い方の受入及び出産対応	妊産婦患者受入医療機関（一体型病院①、一体型病院②、軽症中等症病院）	令和4年1月24日
	○妊婦が陽性となった場合も、軽症であれば、原則、自院での出産対応継続	産科・産婦人科医療機関（病院）（妊産婦コロナ受入医療機関除く）	令和4年1月24日

医療提供体制の確保や高齢者施設支援などに関する医療機関・施設等への要請

項目	要請内容	要請対象	要請日
救急搬送体制にかかる要請	○救急受入患者が抗原検査等で陽性となった際も、軽症中等症患者の場合、医療機関において入院医療を継続（2名程度まで）	二次救急医療機関（コロナ受入医療機関除く）	令和4年1月24日
高齢者施設等における早期の重症化予防治療にかかる要請	○高齢者施設等への往診による中和抗体薬等の処方への協力	新型コロナウイルス感染症自宅療養者への往診を行う医療機関	令和4年1月25日
	○高齢者施設等への往診等、地域単位での往診体制の確保	新型コロナウイルス感染症自宅療養者への往診を行う医療機関など	発出予定
	○施設で陽性者や疑似症患者が発生した場合の速やかな治療の実施（配置医師や連携医療機関、往診医療機関等と連携）	高齢者施設等管理者	発出予定
高齢者施設等における感染対策の徹底	○施設における感染対策の徹底（面会の原則自粛・オンライン実施、職員の感染リスクを減らす行動の徹底等）	高齢者施設等管理者	発出予定
	○施設における感染対策への支援（ゾーニング等感染制御の支援や施設内療養の治療等に対する助言）	感染防止対策加算I算定医療機関など	発出予定
ワクチン追加接種の推進にかかる要請	○高齢者施設等の入所者等への速やかな追加接種の実施（2月末までの接種完了）	府内市町村長	令和4年2月15日
	○速やかな追加接種の実施への協力（連携医療機関、往診医療機関等との連携）	高齢者施設等管理者	発出予定
自宅療養支援にかかる要請	○自宅療養者の健康観察・診療体制の拡充 ○医療機関名の公表への協力	一般社団法人大阪府医師会	令和4年1月11日
保健所業務の重点化に係る協力要請	○ファーストタッチ・健康観察の対象者を65歳以上に重点化	高齢者施設等管理者	発出予定

○ 大規模な感染が発生しており、陽性率も高水準の中、療養決定されていない陽性者が多数発生。

○ 新規陽性者へのフォロー体制のさらなる重点化を図り、ハイリスク者・高齢者の対応を強化。

◆現状1： 1日あたりの新規陽性者数が約1万人を超えるなど、過去に類をみない感染規模。

◆現状2： 陽性者の増加により、入院患者の増加し、病床がひっ迫している。重症者の年代別では60代以上が約8割を占めている。

◆現状3： 高齢者施設等のクラスター発生が急増している。

リスクの高い陽性者への重点化・対応強化 (2月14日付)

ファーストタッチを行う対象者の重点化 (2/9国事務連絡に準じる)

○ファーストタッチ・健康観察を行う 対象者を65歳以上に重点化

①65歳以上の者

②65歳未満の者のうち、重症化リスク因子※を複数持つ者

③妊娠している方

・重症化リスクのない65歳未満は、自宅療養とし、必要な情報をSMSを活用して周知。宿泊療養希望の場合は自宅待機SOSに連絡。

・①～③の方は発生届の記載内容から保健所が療養方針を決定。

・①～③に該当するが保健所から連絡がなく、保健所に連絡しても、繋がらなければ自宅待機SOS(電話:0570-055221)に連絡。

※ワクチン未接種(ワクチン接種が1回のみのも含む)、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、脂質異常症、高血圧症、慢性腎臓病、悪性腫瘍、肥満(BMI 30以上)、喫煙、固形臓器移植後の免疫不全



リスクの高い高齢者への対応強化

○各保健所の高齢者施設 対応を強化

【高齢者施設等】

◎保健所内の対応チームは、高齢者施設等の医療体制・往診の支援。

◎施設に対する物資的支援を強化。

【その他の高齢者等】

◎地域の関係団体、医療機関と連携した在宅での療養・治療支援

○能動的な健康観察実施。

○児童関連施設は必要に応じて保健所に相談(継続) 1

宿泊療養施設を活用した「臨時の医療施設・スマイル」の運用

資料 3 - 5

- ◆ 国が大阪府に対して派遣する医療従事者等を72名確保（2月16日時点、3月末までの受入予定の実人数）
- ◆ 上記の人的支援を受け、府として宿泊療養施設を活用した「臨時の医療施設・スマイル」を2月17日（木）から運用開始

国が確保した医療従事者等の内訳

職 種	3月末までの 受入予定の 実人数 ※	2月17日時点 の配置予定 人数	派遣元機関
医 師	3 名	2 名	国立研究開発法人、 地域医療機能推進機構
看護師	3 4 名	1 8 名	国立病院機構、 地域医療機能推進機構、 国立大学法人、 大阪府看護協会 等
准看護師	1 5 名	2 名	大阪府看護協会
薬剤師	1 5 名	4 名	国立病院機構、 地域医療機能推進機構
事務職 (ロジ業務担当)	5 名	2 名	近畿厚生局
合 計	7 2 名	2 8 名	

※ 上記のほか、国において引き続き関係機関と派遣調整中



臨時の医療施設の運用

- ◆ 設置場所：スマイルホテル新大阪（大阪市内）
- ◆ 確保室（床）数：150室（床）
- ◆ 開 設 者：大阪府
- ◆ 運営体制：大阪医科薬科大学病院（診療体制を整備）
大阪府看護協会（健康観察・看護）
- ◆ 開始時の運用状況：



室（床）数	中等症対応：約20床	軽症対応：約130床
対象患者	・歩行介助など一定の生活 介助が必要な患者 ・常時医師による経過観察が 必要な患者	・中和抗体治療の対象患者等 ・ADLが自立している患者
診療内容	・常駐医師、看護師等による 診療・投薬・看護等を実施	・必要に応じて、常駐医師に よる診療・投薬等を実施 ・看護師による健康観察や 治療後の経過観察等を実施

- ★医師の充足にあわせて、2月21日の週から24時間運用を開始予定
- ★中等症対応病床については、国からの医師等の派遣状況により、150床の範囲内で更なる病床数の拡大も検討

入院患者待機ステーションの運用状況

資料 3 - 6

◆ 新型コロナウイルス感染症の第6波に対応するため、救急車内の患者の一時待機場所として設けた、入院患者待機ステーションを各医療圏域の状況に合わせ、随時運用を再開。

(各日0時時点)

大阪市内	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	備考
大阪市内（第Ⅰステーション）	6人	10人	8人	13人	1人	16人	19人	19人	2月6日 再開
うち、前日からの繰越	0人	4人	5人	3人	0人	1人	8人	9人	

- 最長待機時間：34時間32分
 ➤ 最 高 齢：100歳
- 最短待機時間： 0時間30分
 ➤ 最 年 少： 21歳
- 平均待機時間：11時間17分
 ➤ 平均年齢： 79歳

参考：大阪府の補助金を活用した市町村、消防独自設置分

大阪市外圏域		2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	備考
豊能圏域		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2月3日 再開
南河内圏域		1人	1人	0人	2人	2人	0人	0人	0人	1月25日 再開
泉州圏域	北部	0人	0人	0人	2人	0人	1人	1人	1人	8月1日から常時設置
	南部	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	
合計		1人	2人	0人	4人	3人	1人	1人	3人	